

Oracle Fail Safe for Windows NT and Windows 2000

エラー・メッセージ

リリース 3.1.2

2001年5月

部品番号 : J03699-01

Oracle Fail Safe for Windows NT and Windows 2000 エラー・メッセージ, リリース 3.1.2

部品番号 : J03699-01

原本名 : Oracle Fail Safe Error Messages, Release 3.1.2 for Windows NT and Windows 2000

原本部品番号 : A87472-01

Copyright © 1996, 2001, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
------------	-----

1 メッセージの使用方法

1.1 Oracle Fail Safe エラー・メッセージ	1-1
1.2 変数テキスト	1-2
1.3 メッセージの正確さ	1-2
1.4 オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡	1-2
1.5 トレース・ファイルとアラート・ファイル	1-2

2 エラー・メッセージと状態メッセージ

2.1 FS-10000 から FS-10049 まで	2-1
2.2 FS-10050 から FS-10099 まで	2-7
2.3 FS-10100 から FS-10149 まで	2-15
2.4 FS-10150 から FS-10199 まで	2-22
2.5 FS-10200 から FS-10249 まで	2-29
2.6 FS-10250 から FS-10299 まで	2-34
2.7 FS-10300 から FS-10349 まで	2-40
2.8 FS-10350 から FS-10399 まで	2-43
2.9 FS-10400 から FS-10449 まで	2-47
2.10 FS-10450 から FS-10499 まで	2-51
2.11 FS-10500 から FS-10549 まで	2-58
2.12 FS-10550 から FS-10599 まで	2-65
2.13 FS-10600 から FS-10649 まで	2-73
2.14 FS-10650 から FS-10699 まで	2-78
2.15 FS-10700 から FS-10749 まで	2-84

2.16	FS-10750 から FS-10799 まで	2-89
2.17	FS-10800 から FS-10849 まで	2-95
2.18	FS-10850 から FS-10899 まで	2-99
2.19	FS-10900 から FS-10949 まで	2-105
2.20	FS-10950 から FS-10999 まで	2-107
2.21	FS-11000 から FS-11049 まで	2-109
2.22	FS-11050 から FS-11099 まで	2-116
2.23	FS-11100 から FS-11199 まで	2-121
2.24	FS-11200 から FS-11299 まで	2-123

はじめに

このマニュアルには、Oracle Fail Safe Server から返されるメッセージが掲載されています。

対象読者

このマニュアルは、すべての Oracle Fail Safe ユーザーを対象としています。

構成

このマニュアルは次の 2 つの章から構成されています。

- 第 1 章 Oracle Fail Safe Server のメッセージの使用方法を説明します。
- 第 2 章 Oracle Fail Safe Server のメッセージ、考えられるエラーの原因と推奨する処置などを示します。

関連資料

Oracle Fail Safe の詳細は、次の資料を参照してください。

- ソフトウェアの更新、オンライン・マニュアルへのアクセス、その他のリリース固有の情報は、『Oracle Fail Safe リリース・ノート』を参照してください。
- インストール、削除およびアップグレードの方法は、『Oracle Fail Safe インストレーション・ガイド』を参照してください。
- オンライン・ヘルプは、Oracle Fail Safe Manager に提供されているオンライン・ヘルプ・トピックを参照してください。オンライン・ヘルプ・トピックにアクセスするには、Oracle Fail Safe Manager のメニュー・バーにある「ヘルプ」をクリックしてください。

関連製品に関する詳細は、次の資料を参照してください。

- クラスタ・システムの詳細は、Microsoft Cluster Server (MSCS) のマニュアルを参照してください。
- Oracle サーバーとその動作の仕組みの詳細は、『Oracle8i 概要』を参照してください。
- Net8 の詳細は、『Net8 管理者ガイド』を参照してください。
- ODBC の詳細は、『Microsoft ODBC Software Development Kit and Programmer's Reference』を参照してください。また、ODBC ドライバの Oracle 固有の実装の詳細は、Oracle ODBC オンライン・ヘルプを参照してください。(たとえば、Microsoft により定義されていないフェイルオーバーのセットアップ方法などを説明しています。)
- Oracle Call Interface (OCI) の詳細は、『Oracle8i コール・インタフェース・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。
- Oracle WebDB リスナーの詳細は、Oracle WebDB のドキュメント・セットを参照してください。
- Oracle Forms Load Balancer Server、Oracle Forms および Oracle Reports の詳細は、Oracle Developer のドキュメント・セットを参照してください。
- Oracle Application Server の詳細は、『Oracle Application Server 概要』を参照してください。
- Oracle HTTP Server の詳細は、Oracle HTTP Server のマニュアルを参照してください。
- Oracle Applications Concurrent Manager の詳細は、Oracle Applications 11i のドキュメント・セットを参照してください。

表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

表記規則	意味
.	例の中の縦向き省略記号は、例に直接関係しない情報が省略されていることを示す。
...	文またはコマンドの中の横向き省略記号は、例に直接関係しない文またはコマンドの一部が省略されていることを示す。
イタリック体	イタリック体は、変数を示すために使用する。変数とは、システム・メッセージ内 (たとえば、内部エラー番号 <i>nnn</i>)、コマンドライン内 (たとえば、 <i>/Producer=name</i>)、および本文中でのコマンド・パラメータ内 (現在のホスト名として <i>cluster-node-name</i> を指定しているような場合) で変化する情報を持ちます。

表記規則	意味
太字体	本文中の太字体は、本文や用語集でその用語が定義されていることを示す。
<>	ユーザー指定の名前を囲む記号。
[]	オプション修飾子を囲む記号。この中から1つ選択するか、または選択せずに省略します。
大文字	必須のキーワードまたはパラメータを示す。
小文字	ユーザーが選択するキーワードまたはパラメータを示す。ただし、選択リストからのみ選択が可能です。

メッセージの使用法

この章では、エラー・メッセージに関する一般情報と役立つヒントを説明します。

1.1 Oracle Fail Safe エラー・メッセージ

Oracle Fail Safe には一元化されたメッセージ機能が備わっています。ある操作を実行した結果、エラーが発生すると、システムはエラーに対応するメッセージを検索し、そのメッセージを表示します。メッセージはメッセージ接頭辞、一意のエラー番号およびメッセージ・テキストを表示します。たとえば、次のようになります。

FS-10001: クラスタを開こうとして失敗しました。

接頭辞

すべてのメッセージには、メッセージを生成したプログラムを示すテキストが接頭辞として付けられます。たとえば、"FS" という接頭辞の付いたメッセージは、Oracle Fail Safe によって生成されたものです。

このマニュアルでは、Oracle Fail Safe のメッセージのみを扱います。その他のメッセージ、たとえば Oracle データベース・サーバーに固有のメッセージ（接頭辞は "ORA"）またはその他の製品に固有のメッセージについては、該当する製品の資料を参照してください。

コード番号

Oracle Fail Safe のメッセージには、FS-10000 から FS-11281 の番号が付けられています。

メッセージ・テキスト

メッセージのテキストにはエラーに関する追加情報が示されます。通常は、メッセージを生成した状況が説明されています。

システムによるメッセージのレポート

メッセージは Oracle Fail Safe Manager によって対話式に表示されます。ただし、トレースを使用可能にした場合は、トレース・ファイルに表示されます。

1.2 変数テキスト

エラーの検索および修正に役立つように、Oracle Fail Safe の一部のメッセージにはオブジェクト名、数値および文字列が埋め込まれています。これらの埋込み変数は、`%s`、`%u`、`0x%X` または `%d` で表されます。`%s` は文字列、`%u` は符号なし数値、`0x%X` は 16 進数、`%d` は 10 進数を表します。

たとえば、「FS-10014: グループ %s の移動に失敗しました。」というメッセージは次のように表示されます。

FS-10014: グループ FS-GROUP の移動に失敗しました。

1.3 メッセージの正確さ

このマニュアル内のメッセージの正確さは、オラクル社の懸念事項です。時折、メッセージの改訂がオラクル社のソフトウェアに反映されていない場合があります。このマニュアルのメッセージと異なるメッセージがシステムで表示された場合、その改訂されたメッセージ・テキストは通常、ソフトウェアの次のバージョンに反映されます。

1.4 オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡

オラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法については、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』の付録 C を参照してください。

1.5 トレース・ファイルとアラート・ファイル

トレース・ファイルとアラート・ファイルの詳細は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』の付録 C を参照してください。

エラー・メッセージと状態メッセージ

この章には、Oracle Fail Safe Server から返されるメッセージが掲載されています。メッセージの掲載順序は、番号の昇順に従っています。メッセージごとに、考えられるエラーの原因と推奨する処置を示します。

2.1 FS-10000 から FS-10049 まで

FS-10001: クラスタを開こうとして失敗しました。

原因: 指定されたクラスタ・サービスがローカル・システムで稼働していません。

処置: 次の手順でクラスタ・サービスをローカル・システムで起動します。

1. デスクトップ上で、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. 「コントロールパネル」で「サービス」をダブルクリックします。
3. 起動するクラスタ・サービスを選択して、「スタート」をクリックします。

FS-10002: クラスタを検出するために Oracle Enterprise Manager で使われる TCL スクリプトを作成できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Enterprise Manager がクラスタを検出するために使用する TCL スクリプトを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10003: 構成リストへの TCL ファイル %s の追加に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、TCL ファイルを <Oracle_Home>\Network\Agent\Config ディレクトリの Nmiconf.lst ファイルに追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10004: リソース %s は、Oracle データベースではありません。

原因: 指定したリソース名が Oracle データベースのリソース名ではありません。

処置: Oracle データベースの指定を正しく入力していることを確認します。

FS-10005: リソース %s をグループに追加できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースを追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10006: リソース %s を開けません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたクラスタ・リソースを開けません。

処置: リソース名が正しく入力されていることを確認します。

FS-10007: ローカル・クラスタを開けません。

原因: クラスタ・サービスが稼働していないか、クラスタ・ソフトウェアがローカル・システムにインストールされていません。

処置: クラスタ・ソフトウェアがインストールされており、クラスタ・サービスが起動していることを確認します。

FS-10008: クラスタ・ノード %s を開けません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたノードを開けません。

処置: ノード名が正しく入力され、かつそのノードがクラスタ内にあることを確認します。

FS-10009: クラスタ情報の取出しに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ情報を取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10010: グループ %s をオンラインにできませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループをオンライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10011: グループ %s をオフラインにできませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10012: クラスタ・リソース %s をオンラインにできませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたクラスタ・リソースをオンライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10013: クラスタ・リソース %s をオフラインにできませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたクラスタ・リソースをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10014: グループ %s の移動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループを移動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10015: グループの列挙に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10016: クラスタ・リソースの列挙に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ・リソースのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10017: 列挙のためにグループ %s を開けませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、列挙のために指定したグループを開けません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10018: クラスタ・ノードの列挙に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ・ノードのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10019: グループ %s の名前の変更に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したグループ名に新しい名前を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10020: リソース %s のリソース名の変更に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したリソース名に新しい名前を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10021: Oracle Fail Safe Server の登録に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Fail Safe リモート・プロシージャ・コール (RPC) サーバーを登録できません。

処置: 問題 (NT 構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10022: Oracle Fail Safe Server のリスナーの起動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Fail Safe を管理するためのリモート・プロシージャ・コール (RPC) ・サーバーのリスナーを起動できません。

処置: 問題 (NT 構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10023: クラスタ内のあるノードの名前の取出しに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内のあるノードの名前を取り出せません。

処置: クラスタ内に少なくとも2つのノードがあることを確認します。

FS-10024: ノード %s 上での Oracle Fail Safe サービスの起動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定したノード上で Oracle Fail Safe サービスを起動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10025: ノード %s 上での Oracle Fail Safe Server へのバインドに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定したノード上の Oracle Fail Safe リモート・プロシージャ・コール (RPC) ・サーバーにバインドできません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10026: ノード %s 上での Oracle Fail Safe サービスの停止に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定したノード上の Oracle Fail Safe サービスを停止できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10027: 指定した操作状態は無効です。

原因: ソフトウェア内部の不具合です。

処置: 問題 (NT 構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10028: クラスタ・ディスクの一覧に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server はクラスタ・ディスクを一覧表示できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10029: クラスタ・ディスク %s をグループ %s に移動できませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたクラスタ・ディスクを指定されたグループに移動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10030: グループ %s の作成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10031: グループ %s の削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10032: データベース・インスタンス %s の起動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したデータベースを起動できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10033: 指定したデータベース・インスタンス %s は存在しません。

原因: 指定されたデータベース・インスタンスが存在しません。

処置: データベース・インスタンスを正しく指定していることを確認します。

FS-10034: データベース・インスタンス %s で使用されているディスクの問合せ中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server がデータベース・インスタンスで使用されているディスクの問合せ中にエラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10035: データベースはファイル %s にクラスタ化されていないディスクを使用しています。

原因: データベースが、指定したファイルにクラスタ化されていない（非共有）ディスクを使用しています。

処置: 可用性の高いデータベースとして構成するためには、そのすべてのデータベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに格納する必要があります。データベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動してください。

FS-10036: リソースでディスク %s が使われています。これは別のグループでクラスタ・リソース %s としても使われています。

原因: 別の Microsoft Cluster Server グループ内の別のクラスタ・リソースもそのディスクを使用しているため、Oracle Fail Safe Server はディスク・グループを変更できません。

処置: データベースと他のクラスタ・リソースの両方が同じディスクを使用することが必要な場合は、それらのリソースを同じグループに置きます。

FS-10037: グループ %s のデータの書込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループのデータを書き込めません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10038: グループ %s のデータの取出しに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループのデータを取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10039: グループの一覧作成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループを一覧表示できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10040: データベース・リソース %s の作成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle データベース・リソースを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10041: データベース・リソース %s の削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle データベース・リソースを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10042: Oracle Fail Safe リソースの一覧に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Fail Safe リソースをリストできません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10043: データベース %s のデータの取出しに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースに関する Oracle データベース・リソース・データを取り出せません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10044: データベース %s のデータの変更に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle データベース・リソース・データを変更できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10045: リソース %s をグループから削除できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10046: グループ・リソース %s の検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループ・リソースを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10047: グループ %s の検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10048: データベース %s のリスナー名の設定に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle データベース・リソースにリスナー名を設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10049: インストール済みの Oracle Fail Safe Manager のバージョン (%s) は Oracle Fail Safe Server のバージョン (%s) と非互換です。

原因: Oracle Fail Safe Server と Oracle Fail Safe Manager のバージョンが一致していません。

処置: Oracle Fail Safe Server と Oracle Fail Safe Manager のバージョンが同じことを確認します。

2.2 FS-10050 から FS-10099 まで

FS-10050: リソース %s をグループから削除できません。リソース %s が依存しています。

原因: リソースが、削除しようとしているリソースに依存しています。他のリソースがそのリソースに依存している場合、そのリソースはグループから削除できません。

処置: 削除しようとしているリソースに依存しているすべてのリソースを削除します。

FS-10051: Net8 (または SQL*Net) 構成ファイル %s の読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイルを開けません。そのファイルには構文エラーがあります。

処置: LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイル内のすべての構文エラーを解決します。

FS-10052: Net8 (または SQL*Net) 構成ファイル %s を開くときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイルを開けません。

処置: Net8 (または SQL*Net) 構成ファイルがシステムに存在しているかどうかを調べます。

FS-10053: Net8 (または SQL*Net) 構成ファイル %s (%s) の読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイルを更新または検証できませんでした。そのファイルには構文エラーがあります。アプリケーションがこのファイルを使用している場合、そのアプリケーションでは Oracle Fail Safe による変更はわかりません。

処置: LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイル内のすべての構文エラーを解決します。

FS-10054: Net8 (または SQL*Net) 構成ファイル %s (%s) を開くときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、更新または検証のために LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイルを開けませんでした。そのファイルを開くことに問題があります。アプリケーションがこのファイルを使用している場合、そのアプリケーションでは Oracle Fail Safe による変更はわかりません。

処置: LISTENER.ORA または TNSNAMES.ORA ファイル内またはディレクトリ内のすべてのエラーを解決します。

FS-10055: %s パラメータの値は %s (%s、ノード %s) です。

原因: Net8 デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10059: Oracle Fail Safe Server が必要とする情報が見つかりません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) に関する必要な情報を見つけることができません。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10060: 同じサービス名 %s がすでに存在しています。

原因: 同じノード上で Transport Network Substrate (TNS) サービス名が重複することはできません。

処置: 別の TNS サービス名を使用して、データベース・サーバーにアクセスします。

FS-10061: 対応するサービス名 %s が見つかりません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、TNSNAMES.ORA ファイルで Transport Network Substrate (TNS) サービス名を見つけることができませんでした。

処置: データベースの TNSNAMES.ORA ファイルが正しく構成されていることを確認します。TNSNAMES.ORA ファイルの TNS 名を誰も変更していないことも確認します。元の TNS 名がわからない場合は、Oracle Fail Safe Server により <Oracle_Home>\¥Network¥Admin ディレクトリ内に作成されたバックアップ・ファイルを調べてください。TNSNAMES.ORA バックアップ・ファイルの名前は TNSNAMES.00n となっています。n の部分は整数です。

FS-10062: Net8 (または SQL*Net) リスナーがデータベース・インスタンスに対して一意ではありません。

原因: Net8 (または SQL*Net) リスナーが、複数の Oracle インスタンスを処理しています。

処置: 問題 (LISTENER.ORA ファイルのコピーを含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。このリスナーの LISTENER.ORA ファイルを調べます。

FS-10063: グループにネットワーク名が割り当てられていません。

原因: グループにネットワーク名が割り当てられていません。

処置: グループにネットワーク名を割り当ててください。各グループには一意のネットワーク名が必要です。

FS-10064: Net8 (または SQL*Net) リスナーの構成計画の生成でエラーが発生しました。

原因: Net8 (または SQL*Net) の構成計画を生成するときに、エラーが検出されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10065: Net8 (または SQL*Net) リスナーの構成中にエラーが発生しました。

原因: 構成計画を使用して Net8 (または SQL*Net) リスナーを再構成するときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10066: Net8 (または SQL*Net) リスナーの NT サービス %s の起動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) リスナーのサービスの起動に失敗しました。Oracle Fail Safe Server は、リスナーの定義を変更した後、または新しいリスナーを定義した後でリスナーを起動しようとして失敗しました。この失敗は、次の 2 つの条件のいずれかが原因です。最初の条件が最も一般的です。

- 実行中の別の Net8 (または SQL*Net) リスナーが、すでにデータベースをリスニングしていること。Net8 リスナーは、システム上の 2 つのリスナーが同じアドレスまたはデータベース SID をリスニングしていないことを確認します。この問題が発生すると、Oracle Fail Safe により、更新されたリスナーの定義およびサービス名の定義を含む LISTENER.ORA ファイルと TNSNAMES.ORA ファイルがロールバック・ファイルとして保存されます。ロールバック・ファイルのファイル名は、<name>_RLORA です。<name> は、LISTENER または TNSNAMES です。(例は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照。)
- Oracle Fail Safe がリスナーを起動しようとしているノード上で、リスナーが使用する仮想アドレスがアクティブになっていないこと。

処置: 最初の問題が原因と思われる場合は、ロールバック・ファイルを読み込んで、リスナーの定義を探します。この定義を、システム上で稼働している他のすべてのリスナーの定義と比較します。リスナー間でアドレスまたはデータベース SID 名の重複がないようにしてください。複数 Oracle ホームを伴うシステム上のすべての

LISTENER.ORA ファイルをチェックします。2 番目の問題が原因と思われる場合は、Oracle Fail Safe がリスナーを起動しようとしているノード上で、リスナーが使用する仮想アドレスがアクティブになっていることを確認します。

FS-10067: Net8 (または SQL*Net) リスナーの NT サービス %s の停止に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) リスナーの指定したサービスの停止に失敗しました。

処置: クラスタ上の LISTENER.ORA ファイルを調べます。

FS-10068: Net8 (または SQL*Net) リスナーの NT サービス %s の削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定した Net8 (または SQL*Net) リスナーのサービスを削除できませんでした。

処置: クラスタ上の LISTENER.ORA ファイルを調べます。

FS-10069: Net8 (または SQL*Net) リスナーの NT サービス %s が存在しません。

原因: Net8 (または SQL*Net) リスナーに指定した NT サービスが存在しません。

処置: クラスタ上の LISTENER.ORA ファイルを調べます。

FS-10070: Net8 (または SQL*Net) : %s

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) ファイル内のデータの読み込みまたは更新に失敗しました。次のいずれかが原因です。

- 不適切な更新や破損のため、これらのファイルが有効でなくなっていること。
- グループのサービス名、データベース SID またはネットワーク名が不適切なこと。
- データベース SID が、(複数 Oracle ホーム環境で) 複数のリスナーに含まれていること。

処置: 不適切な更新またはファイルの破損によってこれらのファイルが有効でなくなっている場合、Oracle Fail Safe ではこれらを使用して仮想サーバー情報を構成することはできません。これらのファイルの有効なバージョンを取り出すか、Oracle Net8 Assistant を使用して再作成します。

これらのファイルが有効な場合は、操作で使用されているグループのサービス名、データベース SID およびネットワーク名が正しいかどうかを調べます。情報が不適切な場合、この手順が失敗することがあります。

複数 Oracle ホーム環境でシステムを使用している場合は、データベース SID が複数のリスナーに含まれていないことを確認します。システム上のすべての LISTENER.ORA ファイルをチェックします。

FS-10071: Net8（または SQL*Net）デフォルト・ドメインの取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、SQLNET.ORA ファイルから Net8（または SQL*Net）デフォルト・ドメインを取り出すことができませんでした。

処置: クラスタ上の SQLNET.ORA ファイルに、NAMES.DEFAULT_DOMAIN パラメータの値が含まれているかどうかを調べます。その値がない場合、このファイルの変更方法は『Net8 管理者ガイド』を参照してください。

FS-10072: データベース %s 上でチェックポイントの実行中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース上のチェックポイント操作の実行に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10073: グループ %s のクラスタ・リソースをオフラインにできませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループ内の全リソースをオフライン化できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10074: 要求された操作のために Net8（または SQL*Net）を構成しているときに、エラーが発生しました。

原因: 要求された操作のため Net8（または SQL*Net）を構成するときに、エラーが検出されました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10075: Net8（または SQL*Net）サービス名の構成中にエラーが発生しました。

原因: 構成計画を使用して Net8（または SQL*Net）サービス名を再構成するときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10077: Oracle 共有ソケットが %s ホーム（ノード %s）のリスナーに対して使用可能にされています。共有ソケットを使用禁止にしてください。

原因: Oracle Fail Safe Server は、USE_SHARED_SOCKET 環境変数が TRUE に設定されていることを検出しました。共有ソケットが使用可能になっている場合、Oracle Fail Safe Server がリスナーを再起動できないことがあります。

処置: 指定されたノード上で、USE_SHARED_SOCKET 環境変数が FALSE に設定されていることを確認します。

FS-10078: グループ %s のリソースのリソース再起動ポリシーの再設定中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループのリソースに対する再起動ポリシーの再設定に失敗しました。

処置: 指定されたグループ内のリソースに対する再起動ポリシーが正しいことを確認します。デフォルト設定は、再起動するすべてのリソースに対するものであり、グループに影響します。

FS-10080: ネットワーク名リソースの検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ネットワーク名リソースを検証できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10081: クラスタの複数ノード上に Oracle データベース・インスタンス %s があります。

原因: クラスタの複数ノード上に、Oracle データベース・インスタンスが存在しています。

処置: スタンドアロン・データベースの Oracle データベース・インスタンスは、クラスタの一方のノードにのみ常駐します。「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを発行して（「トラブルシューティング」→「スタンドアロン・データベースの検証」）、クラスタ環境をクリーン・アップし、再度データベースをグループに追加します。

FS-10082: Oracle データベース・インスタンス %s はすでに存在しています。

原因: 指定した Oracle データベース・インスタンスは、ノードにすでに存在しています。

処置: ノードから指定した Oracle データベース・インスタンスを削除し、操作を再試行します。

FS-10084: スタンドアロン・リソースによって使われるディスク %s は、ノード %s 上ではオンラインではありません。

原因: スタンドアロン・リソースはノード %s 上にありますが、リソースが使用するディスクはオフラインになっているか、別のノード上でオンラインになっています。

処置: ディスクがオフラインの場合は、Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用してオンライン化します。別のノード上でオンラインになっている場合は、Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用して、指定されたディスクを含むグループを別のノードに移動します。グループ内の他のリソースがある場合は、新規グループを作成してそのグループにディスクを移動し、スタンドアロン・リソースが置かれているノード上に新規グループを移動することを検討してください。

FS-10085: この操作によって指定されたインスタンス名 %s はインスタンス名 %s（ネット・サービス名 %s で見つかった）と同じではありません。

原因: 不適切な SID 名が指定されている可能性があります。

処置: データベースに対して正しい SID 名を指定していることを確認します。

FS-10086: 詳細はクラスタ・ログを参照してください。

原因: クラスタは、リソースをオンライン化できません。

処置: 理由に関する詳細情報はクラスタ・ログを参照してください。

FS-10087: Net8 (または SQL*Net) の構成がサポートされていません。

原因: Oracle Fail Safe は、その構成のシステムをサポートしていません。

処置: 説明は、副次的エラーを参照してください。

FS-10088: データベース・インスタンスを扱うリスナーは、複数のホストと異なるポートでリスニング中です。

原因: そのデータベース・インスタンスを扱うリスナーは、複数のホストと異なるポート番号をリスニング中です。このタイプの構成はサポートされていません。

処置: Oracle Fail Safe は、複数ホストを同じポート番号を使用してリスニングするリスナーをサポートしています。可能な場合は、リスナーの構成をそれに従って変更してください。

FS-10089: ネットワーク名リソース %s がオンラインではありません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、オンライン状態のそのネットワーク名リソースを見つけませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10090: ノード %s での Net8 (または SQL*Net) の変更をロールバックしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) の変更をロールバックしています。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10091: Net8 (または SQL*Net) リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリに登録できませんでした。

原因: 持続クラスタ・レジストリ (PCR) へのリスナー情報の登録操作でエラーが発生しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10092: Net8 (または SQL*Net) リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリから削除できませんでした。

原因: 持続クラスタ・レジストリ (PCR) からのリスナー情報の削除操作でエラーが発生しました。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10093: クラスタ・ノード %s はこの操作で使うことができません。

原因: 指定されたクラスタ・ノードが停止しているか、クラスタ・サービスが稼働していません。

処置: 指定されたクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-10094: Net8 (または SQL*Net) リスナー (%s) の情報をグループ %s の持続クラスタ・レジストリから取り出せませんでした。

原因: 指定されたクラスタ・ノードが停止しているか、クラスタ・サービスが稼働していません。

処置: 指定されたクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-10095: クラスタにあるノードは1つのみなので、グループを移動できません。

原因: グループを移動するには、少なくとも2つのクラスタ・ノードが必要です。

処置: クラスタに別のノードを追加してください。

FS-10096: グループの移動には宛先ノードを指定する必要があります。

原因: クラスタには3つ以上のノードがあるため、宛先ノードが必要です。

処置: 宛先ノードを指定してください。

FS-10097: ノード %s と %s では最高データベース・バージョンの Oracle ホームで Net8 デフォルト・ドメインが一致しません。

原因: Net8 デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10098: クラスタ・ノード間で一貫性の無い Net8 デフォルト・ドメインはデータベースへのアクセスで問題となる可能性があります。

原因: Net8 デフォルト・ドメインがノード間で一致しません。

処置: Net8 デフォルト・ドメインがクラスタ・ノード間で一貫するようにします。

FS-10099: データベース・リソース %s は非所有者ノードからのデータベースへのアクセスには使用できません。ドメイン名が必要です。

原因: Net8 デフォルト・ドメインが必要です。

処置: データベース・リソース名にドメイン名を追加します。

2.3 FS-10100 から FS-10149 まで

FS-10100: 子プロセス内の要求された操作はタイムアウトになりました。

原因: 子プロセスで要求された操作がタイムアウトになり、完了できません。

処置: 操作を再実行します。問題が解決しない場合は、その問題（NT 構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10101: クラスタ上のユーザー %s¥%s の認証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クライアントを認証できませんでした。

処置: Oracle Fail Safe Manager インタフェースからクラスタ接続を確立するときこのエラーを受け取った場合は、正しいユーザー名とパスワードを入力していることを調べます。クラスタ・サーバー・サービスがローカル・ノード上で稼働中であることも確認します。Oracle Enterprise Manager コンソールから「編集」機能を使用するときこのエラーを受け取った場合は、有効な優先接続情報リストを持っていることを確認します。優先接続情報リストを変更するには、Oracle Enterprise Manager の「ファイル」メニューの「設定」をクリックし、サービスのリストからクラスタ別名を選択します。そして、クラスタにアクセスするための有効なユーザー名（クラスタ・ドメインを含む）とパスワード（クラスタのドメイン管理者のアカウントとパスワード）を入力します。

FS-10102: クラスタ上でのクライアントの擬似作成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クライアントを擬似作成できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10103: Oracle Fail Safe Server は、クライアント・コンテキストの有効性検査に失敗しました。

原因: このエラーは通常、Oracle Fail Safe Manager が Oracle Fail Safe Server との接続を失ったことを意味します。

処置: 「ファイル」メニューの「クラスタ接続の変更」をクリックし、クラスタ接続を指定し直して、サーバーに再接続します。

FS-10104: Oracle Fail Safe Server でメモリーが不足しています。

原因: Oracle Fail Safe Server でメモリーが不足している状態です。

処置: Oracle Fail Safe Server が使用できるメモリーを増やしてください。

FS-10105: 要求した操作は、ノード %s 上で Oracle Fail Safe Server によって実行される必要があります。

原因: 要求された操作は、指定されたノード上で実行する必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager が、適切なノードに要求を転送します。

FS-10106: Oracle Fail Safe Server によって通知されたエラー・メッセージはありません。

原因: Oracle Fail Safe Server はエラーを報告しませんでした。

処置: 問題（実行している操作に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10107: Oracle Fail Safe Server は、クラスタワイド操作に対するロックの取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタワイドの操作に対するロックを取得できません。すでに進行しているクラスタワイドの操作が、ロックを保持している可能性があります。

処置: 現在実行中の操作が完了するまで数分待ってから、操作を再試行します。クラスタワイドの操作が実行されていない場合は、Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用して、クラスタ・グループの Oracle Fail Safe サービスを一度停止してから再起動します。次に、別のノード（クラスタ・グループを実行していないノード）上で、Oracle Fail Safe サービスを再起動するために、Windows NT の「コントロール パネル」プログラム・グループの「サービス」をダブルクリックし、「OracleFailSafe」サービスを停止してから起動します。

FS-10109: クラスタ・ネットワークの一覧に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server はクラスタ・ネットワークを一覧表示できません。

処置: クラスタ・サーバーがローカル・マシン上で稼働中であることを確認します。

FS-10110: グループは整合性がとれていません。グループ %s に依存オブジェクトがありません。

原因: 検証操作によって、指定した依存オブジェクトがグループにないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループを削除し、再作成してから再移入します。あるいは、問題（クラスタ構成に関する情報を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10111: グループ %s の検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループ検証でエラーを検出しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10112: リソース %s の検証に失敗しました。

原因: グループ内の指定したリソースが、検証に成功しませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10113: %s のリソース依存性の検証に失敗しました。

原因: グループ内の指定したリソースが、リソース依存性の検証に成功しませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

- FS-10115: Oracle データベース・インスタンス %s をノード %s 上に作成できませんでした。**
原因: 指定した Oracle データベース・インスタンスの作成に失敗しました。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10116: ディスク %s のリソース情報の取得に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、ローカル・クラスタからディスク・リソース情報を取得できません。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10117: グループに対する操作が失敗して、リソースが保留中または失敗した状態です。リソースをチェック後再試行します。**
原因: 指定されたグループには、保留状態または障害状態のリソースがあります。リソースがこのどちらかの状態にある間、Oracle Fail Safe Server はグループに対して操作を実行できません。
処置: リソースが保留状態または障害状態ではないときに、再試行します。
- FS-10118: グループ %s の移動が完了するまでの待機に失敗しました。**
原因: 「グループを別ノードに移動」操作完了の待機中に、Oracle Fail Safe Server に障害が発生しました。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10119: グループが宛先ノードに常駐できませんでした。**
原因: グループを移動するコールは、成功しました。ただし、移動操作の完了後もグループがまだ元のノードに常駐しています。そのグループが宛先ノードからフェイルバックしたか、もしくはクラスタ・ソフトウェアにエラーが発生しました。
処置: 問題がフェイルバックによるものであれば、グループをオフラインにして「グループを別ノードに移動」操作を再試行します。次に、宛先ノードで、個々のリソースをオンラインに戻して、どのリソースがフェイルバックの原因となったのかを判断します。問題がクラスタ・ソフトウェア内のエラーによるものであれば、そのクラスタ・ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- FS-10120: Oracle Fail Safe Server がリソースを見つけられません。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、要求されたリソースを見つけることができません。
処置: 正しいリソース名を入力したことを確認してください。
- FS-10121: Oracle Fail Safe Server は、ORACLE_HOME 環境変数の解釈に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、ORACLE_HOME 環境変数の値を取得できませんでした。
処置: ORACLE_HOME が正しく構成されていることを確認します。

FS-10122: Oracle Fail Safe Server は、NLS_LANG 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、NLS_LANG 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: NLS_LANG が正しく構成されていることを確認します。

FS-10123: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: Net8 (または SQL*Net) が正しく構成されていることを確認します。

FS-10124: Oracle Fail Safe Server は、ORA_<sid>_PWFFILE 環境変数の解釈に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ORA_<sid>_PWFFILE 環境変数の値を取得できませんでした。

処置: ORA_<sid>_PWFFILE が正しく構成されていることを確認します。

FS-10125: Oracle Fail Safe Server は、サポートされている記憶リソースをクラスタ内に見つけれません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、サポートしている記憶リソースをクラスタで見つけることができませんでした。

処置: カスタム記憶リソース・タイプがクラスタ内で使用されている場合、Oracle Fail Safe が記憶リソース・タイプをサポートするために、リソース・タイプは、そのリソース DLL 内のリソース制御関数 CLUSCTL_RESOURCE_STORAGE_GET_DISK_INFO をサポートする必要があります。

FS-10126: このグループ %s 用のネットワーク名リソースが必要ですが、見つかりませんでした。

原因: このグループ内のリソースにはネットワーク名リソースが必要ですが、グループ内にネットワーク名リソースが見つかりません。

処置: グループにネットワーク名リソースを追加します。

FS-10127: このグループ %s 用のリスナー・リソースが必要ですが、見つかりませんでした。

原因: このグループ内のリソースにはリスナー・リソースが必要ですが、グループ内にリスナー・リソースが見つかりませんでした。

処置: グループにリスナー・リソースを追加します。

FS-10128: グループ %s はリスナー・リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

原因: グループはリスナー・リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

処置: グループからリスナー・リソースを削除します。

FS-10129: グループ %s は Oracle Intelligent Agent リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

原因: グループは Oracle Intelligent Agent リソースを含んでいますが、必要なデータベース・リソースを含んでいません。

処置: グループから Oracle Intelligent Agent リソースを削除します。

FS-10130: Oracle Fail Safe Server は、グループ %s への Oracle Intelligent Agent の追加に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループ内に Oracle Intelligent Agent を作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10131: Oracle Fail Safe Server は、グループ %s からの Oracle Intelligent Agent の削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループから Oracle Intelligent Agent を削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10132: Oracle Fail Safe Server は、グループ %s の Oracle Intelligent Agent 情報の問合せに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループ内の Oracle Intelligent Agent 情報を問い合わせることができません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10133: Oracle Fail Safe Server は、グループ %s の Oracle Intelligent Agent 情報の変更失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループの Oracle Intelligent Agent 情報を変更できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10134: Oracle Fail Safe Server は、Windows NT レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報へのアクセスまたは変更失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Windows NT レジストリ内の Oracle Intelligent Agent 情報へのアクセス、または情報の変更ができません。

処置: Windows NT レジストリを調べます。

FS-10135: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent 構成ファイルの移動に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent 構成ファイルを移動できません。

処置: そのグループの Oracle Intelligent Agent がオンラインになっていないことを調べます。また、Oracle Intelligent Agent が使用した以前のディスクと新規ディスクがオンラインになっていることも調べます。

FS-10136: Oracle Intelligent Agent NT サービス %s をノード %s に作成できませんでした。

原因: Oracle Intelligent Agent NT サービスの作成が失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10137: Windows NT レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報の作成に失敗しました。

原因: Windows NT レジストリ内への Oracle Intelligent Agent 情報の作成が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10138: Windows NT レジストリの Oracle Intelligent Agent 情報の訂正に失敗しました。

原因: Windows NT レジストリ内の Oracle Intelligent Agent 情報の訂正が、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10139: Oracle Intelligent Agent の実行環境格納ファイルの読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent の実行環境格納ファイルを読み込めません。この情報がないと、Oracle Intelligent Agent を検証できません。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループからエージェントを削除し、次にエージェントを再構成します。

FS-10140: Oracle Intelligent Agent 構成パスは、グループにないディスクを参照していません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent 構成パスがグループ内にはないディスクを参照していることを確認しました。

処置: Oracle Fail Safe Manager を使用して、グループから Oracle Intelligent Agent を削除し、次に Oracle Intelligent Agent を再構成します。

FS-10141: Oracle データベース・インスタンス %s をノード %s 上から削除できませんでした。

原因: Oracle データベース・インスタンスの作成が失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10142: Oracle Intelligent Agent %s は、完全には削除されていません。

原因: Oracle Intelligent Agent のために作成された一部の Oracle Fail Safe 構成情報が、Windows NT レジストリ内に残っている可能性があります。

処置: 問題 (NT 構成および副次的エラーに関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10143: 次のいずれかの Oracle DLL のロードに失敗しました : %s

原因: 指定された Oracle DLL をロードできません。

処置: 検索パスに、正しい Oracle ホームの bin ディレクトリが含まれていることを確認します。

FS-10144: Oracle Fail Safe Server では、Oracle Server 7.3.3.3.2 以上が必要です。

原因: ora73.dll のバージョンが、7.3.3.3.2 より前のバージョンです。

処置: 7.3.3.3.2 パッチをインストールします。Oracle Fail Safe Server には、Oracle Server 7.3.3.3.2 以上が必要です。

FS-10145: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンが、%s Oracle ホーム (ノード %s) にインストールされていません。

原因: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンが、指定された Oracle ホームにインストールされていません。

処置: Oracle Intelligent Agent の最小バージョンを、指定された Oracle ホームにインストールします。

FS-10146: Oracle Enterprise Manager の TCL スクリプトを生成するための有効な位置を見つけれませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Enterprise Manager がクラスタを検出するために使用する、TCL スクリプトを作成するための有効な位置を見つけることができませんでした。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10147: リソース依存性レベルを判別中のエラー。

原因: Oracle Fail Safe Server がグループのリソースの依存性レベルを判定しているときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10048: Oracle Intelligent Agent リソース %s の作成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle Intelligent Agent リソースを作成できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10149: グループからのクラスタ・ディスクの削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループからクラスタ・ディスクを削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.4 FS-10150 から FS-10199 まで

FS-10150: ファイル %s は、使用不能なクラスタ・ディスク (グループ %s、ノード %s) にあります。

原因: 指定したファイルは、現在このノードから使用できないクラスタ・ディスクに常駐しています。

処置: そのクラスタ・ディスクが常駐しているグループを、このノードに移します。

FS-10151: パラメータ・ファイルを開くことができません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、その操作に対するパラメータ・ファイルを開けません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10152: クラスタ・リソース名 %s はすでに存在します。

原因: 指定されたクラスタ・リソースは、すでに存在しています。

処置: 一意のクラスタ・リソース名を指定します。

FS-10153: %s に対するデータベース情報の問合せが失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースに関する情報を取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10154: データベース・バージョン %d.%d.x では、オフライン・モードは無効です。

原因: そのデータベースに対して指定されたオフライン・モードは、指定されたデータベースのバージョンには無効です。

処置: 指定されたデータベースのバージョンに有効なオフライン・モードを指定します。たとえば、transactional モードは 8.1.5 以上のデータベースでのみ有効です。

FS-10155: データベース %s (ノード %s) には他のノード上のパスワード・ファイルより 1 時間以上古いパスワード・ファイルがあります。

原因: 指定したデータベースの指定したクラスタ・ノード上のパスワード・ファイルは、他のクラスタ・ノード上のパスワード・ファイルより 1 時間以上古いものです。

処置: 指定したデータベースに対するすべてのパスワード変更が、指定されたノード上で行われたことを確認してください。

- FS-10156: スタンドアロン・データベース・リソース %s はノード %s に構成されます。**
原因: 指定したノードが指定したスタンドアロン・データベース・リソースの所有者として選択されました。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10157: スタンドアロン・データベース・リソース %s を検証するには、所有者ノードを選択する必要があります。**
原因: 指定したスタンドアロン・データベース・リソースの所有者となるノードを、ノード選択リストから1つ選択します。
処置: 「スタンドアロン・データベースの検証」を再度実行して、選択します。
- FS-10158: データベース・インスタンス %s が複数ノードに存在します。スタンドアロン・データベース・リソースは1ノードのみ存在できます。**
原因: スタンドアロン・データベース・リソースのデータベース・インスタンスが、クラスタの複数のノード上に存在しています。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10159: ノード・リストからスタンドアロン・データベース・リソース %s が常駐するノードを選択してください。**
原因: スタンドアロン・データベース・リソースが常駐する必要があるノードが指定されていません。
処置: 選択してください。リストから、ノードを1つ選択します。
- FS-10160: スタンドアロンの Oracle データベース %s の検証に失敗しました。**
原因: Oracle データベースの検証が失敗しました。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10161: Oracle データベース %s (所有していないノード %s 内) への参照を削除しようとして失敗しました。**
原因: Oracle データベースが常駐していないクラスタ・ノード上の、そのデータベースへの参照を削除しようとして失敗しました。
処置: 指定されたノード上の Net8 (または SQL*Net) ファイルのデータベースへの参照を調べます。
- FS-10162: 選択していないノードのインスタンスは削除されます。**
原因: 選択していないノード上のインスタンスが削除されます。
処置: 他のノードからインスタンスを削除してもよいのかを確認してください。

FS-10163: サービス名が %s のデータベースはグループ内にあり、スタンドアロンではありません。グループの検証を実行してください。

原因: スタンドアロン・データベースの検証のかわりに、高可用性のために構成されたデータベースの検証が指定されました。

処置: そのデータベースを含むグループに対して「グループの検証」を実行します。「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドで検証できるのは、スタンドアロン・データベースのみです。

FS-10164: SID が %s のデータベースはグループ内にあり、スタンドアロン・データベースではありません。グループの検証を実行してください。

原因: スタンドアロン・データベースの検証のかわりに、高可用性のために構成されたデータベースの検証が指定されました。

処置: そのデータベースを含むグループに対して「グループの検証」を実行します。「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドで検証できるのは、スタンドアロン・データベースのみです。

FS-10165: Oracle Fail Safe Server は、ノード %s 上にデータベース・インスタンスを作成します。%s は Oracle8 データベースですか？

原因: 指定されたノードに、データベース・インスタンスが存在しません。

処置: Oracle8 データベース・インスタンスを作成するには、「はい」をクリックします。Oracle7 データベース・インスタンスを作成するには、「いいえ」をクリックします。

FS-10166: スタンドアロン・データベースの検証中に、Net8（または SQL*Net）の構成に失敗しました。

原因: スタンドアロン Oracle データベースの検証中に Net8（または SQL*Net）を構成しようとしたが、失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10167: %s サービス名エントリ内の SID の値とユーザーが指定した値の違いを解決できません。

原因: 指定されたサービス名に対するエントリは TNSNAMES.ORA ファイルにありましたが、その SID はユーザーが入力した SID と一致しません。

処置: 「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドでは、サービス名から SID へ正しくマッピングされている必要があります。入力値が正しく指定されていることを確認します。TNSNAMES.ORA に、サービス名と SID のマッピングが正しくないエントリがある場合は、TNSNAMES.ORA ファイルを訂正し、「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを再実行します。

- FS-10169: リソース %s はグループ %s のクラスタ・ディスクを使用しており、グループ %s と同じノードにはありません。グループ %s を移動しますか？**
原因: 指定されたリソースは、他のノード上のクラスタ・ディスクを使用しています。
処置: Oracle Fail Safe Server で、指定されたクラスタ・ディスクを含むグループを移動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。
- FS-10170: ネット・サービス名 %s に SID または SERVICE_NAME パラメータが存在しません。**
原因: サービス名エントリには、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータが必要です。
処置: サービス名エントリに、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータを追加します。
- FS-10171: ネット・サービス名エントリに (SID=%s) を追加してください。8.1.5 以降では (SERVICE_NAME=...) パラメータを使用できます。**
原因: サービス名エントリには、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータが必要です。
処置: サービス名エントリに、SID パラメータまたは SERVICE_NAME パラメータを追加します。
- FS-10172: %s サービス名エントリ内の SERVICE_NAME パラメータ値は、データベース・パラメータ・ファイル内の値と一致する必要があります。**
原因: サービス名エントリ内の SERVICE_NAME パラメータの値は、データベース・パラメータ・ファイル内の値と一致する必要があります。
処置: SERVICE_NAME パラメータの正しい値を判断し、それに従って変更します。
- FS-10173: Oracle データベース・ホームの最高バージョンの取得に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe は、Oracle データベース・ホームの最高バージョンを取得できませんでした。
処置: このエラーによる問題は発生しません。Oracle Fail Safe Server は、パスから DLL ファイルをロードしようとします。副次的エラーを参照してください。
- FS-10174: 現行のディレクトリの取得に失敗しました。**
原因: 現行のディレクトリを取得できませんでした。
処置: このエラーによる問題は発生しません。Oracle Fail Safe Server は、パスから DLL ファイルをロードしようとします。副次的エラーを参照してください。
- FS-10175: メモリーを %s に割り当てられません。**
原因: 指定したルーチンにメモリーを割り当てられません。
処置: 実行中の Oracle Fail Safe 操作をすべて取り消し、Oracle Fail Safe Server を再起動します。

FS-10176: NL パーサーのファイル %s のロードに失敗しました。

原因: 指定した DLL ファイルをロードできません。

処置: このエラーによる問題は発生しません。副次的エラーを参照してください。

FS-10177: NL パーサーの DLL ファイルをロードできません。

原因: ロードできる NL パーサーの DLL ファイルがありません。

処置: 『Oracle Fail Safe インストレーション・ガイド』を参照してください。

FS-10178: NL パーサーの DLL には記号 %s が見つかりません。

原因: 指定した記号が NL パーサーの DLL にありません。

処置: 『Oracle Fail Safe インストレーション・ガイド』を参照してください。

FS-10179: NL パーサーの DLL ファイルに関連した問題が、ファイル %s を開いたときに発生しました。

原因: 副次的エラーのため、指定したファイルを開けません。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-10180: ファイル %s が見つかりません。

原因: 指定されたファイルが見つかりません。

処置: 指定したファイルは存在するはずです。見つからない理由を確認してください。

FS-10181: NLEPE スタックからのステータス : emfi[%d] err_codel[%d] flag[%d] os [%d]

原因: NL パーサー・エラー・コードのスタック。

処置: スタック内に見つかったエラーによる問題は発生しません。ただし、それが Oracle Fail Safe の操作の失敗によるものである場合は、エラー・スタックをオラクル社 カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10182: NL パーサーによって返されたエラーのため、ファイル %s のエントリが読み込めません。

原因: 指定したファイルのエントリが一部読み込めません。

処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。ファイル内の不正なエントリを特定し修正します。

FS-10183: エントリの構文エラーのため、ファイル %s のエントリが読み込めません。

原因: 指定したファイルのエントリが一部読み込めません。

処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。ファイル内の不正なエントリを特定し修正します。

- FS-10184:** NL パーサーによって返されたエラーのため、NL パーサーのコンテキストが作成できません。
原因: NL パーサーのコンテキストを作成できません。
処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。
- FS-10185:** NL パーサーによって返されたエラーのため、NL パーサーのコンテキストを閉じることができませんでした。
原因: NL パーサーのコンテキストがエラーを返したため、閉じることができませんでした。
処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。
- FS-10186:** ファイルへの書き込み時に一致しない引用文字列が見つかりました。文字列は次のとおりです: %20.20s
原因: 一致する引用符のない引用文字列があります。
処置: ファイル内の文字列を特定し、問題箇所を修正してください。
- FS-10187:** NL パーサーによって返されたエラーのため、関数 `nlparseq` が失敗しました。
原因: NL パーサーの `sequence` 関数が失敗しました。
処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。副次的エラーがない場合は、問題を無視してください。
- FS-10188:** NL パーサーによって返されたエラーのため、名前 %s に対する関数 `nlpagas` が失敗しました。
原因: NL パーサーの `get` 関数が失敗しました。
処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。副次的エラーがない場合は、問題を無視してください。
- FS-10189:** NL パーサーによって返されたエラーのため、名前 %s に対する関数 `nlpassp(s)` が失敗しました。
原因: NL パーサーの `set` 関数が失敗しました。
処置: 副次的エラーの NLEPE スタックを参照してください。副次的エラーがない場合は、問題を無視してください。
- FS-10190:** `nlspfile` 関数を使用した、ファイル %s へのエントリの書き込みはサポートされていません。
原因: ロードされた NL パーサーの DLL は、`nlspfile` 関数をサポートしていません。
処置: 処置は必要ありません。
- FS-10191:** ファイル %s を書き込みのために開くことができません。
原因: 指定したファイルを書込みのために開くことができません。
処置: 指定したファイルを確認して問題の原因を特定します。

FS-10192: ファイル %s が正常に開きました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10193: 静的記号 %s が見つかりません。

原因: 特定の記号が見つかりません。

処置: 内部でのみ使用されます。処置は必要ありません。

FS-10194: NL パーサーのハンドルが無効です。

原因: ハンドルが無効です。

処置: 内部でのみ使用されます。問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10195: パラメータが無効です。

原因: パラメータが無効です。

処置: 内部でのみ使用されます。問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10196: ファイル %s への書込みに失敗しました。

原因: 指定されたファイルに対する書込み操作が失敗しました。

処置: 指定したファイルを確認して問題の原因を特定します。

FS-10197: エントリ %s がルーチン %s で NL パーサーによってパースされたファイルに見つかりません。

原因: NL パーサーにより解析されたファイルに指定したエントリが見つかりません。

処置: これは情報メッセージである場合があります。このメッセージに関連する 1 次エラーがある場合は、エントリを作成する適切な方法を見つけてください。

FS-10198: NL パーサー NLNV エラー・コード %d がルーチン %s からルーチン %s より呼び出されて返されました。

原因: 指定したエラー・コードおよびその他の情報の NLNV 操作が失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。副次的エラーを使用しても問題が解決できない場合は、このエラーおよび副次的エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10199: NL パーサーに渡された文字列: %s

原因: 指定した文字列の NLNV 操作が失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。副次的エラーを使用しても問題が解決できない場合は、エラーおよび副次的エラーをオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.5 FS-10200 から FS-10249 まで

FS-10203: ディスク・リソース %s のグループはクラスタ・リソース %s に依存しているため変更できません。

原因: ディスクはそのカレント・グループ内のクラスタ・リソースに依存しているため、Oracle Fail Safe Server はそのディスク・グループを他のグループに移動できません。

処置: (ディスクのある) グループにリソースを追加するか、リソースを追加する前に、Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用して、ディスクのリソースおよびそれが依存する全リソースを、リソースの検索先であるグループへと変更します。

FS-10204: 持続クラスタ・レジストリには、これ以上リスト項目が存在しません。

原因: 持続クラスタ・レジストリ内のリストの終わりに達したため、要求された項目を返すことができません。

処置: これはコール側コンポーネントへの情報通知状態です。処置は必要ありません。

FS-10209: データベース・リソース %s のデータベース・バージョンを取得できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースのバージョンを取得できませんでした。このエラーは、データベースがオフラインの場合に発生します。

処置: データベースをオンラインにしてから、操作を再実行します。副次的なエラーを調べます。

FS-10210: ユーザー %s の認証に失敗しました。ドメイン・アカウントを指定する必要があります。

原因: アカウントがドメイン・アカウントではないため、Oracle Fail Safe Server がクライアントを認証できませんでした。

処置: ドメイン・アカウントを使用してサーバーにログインします。

FS-10211: ユーザー %s の認証に失敗しました。ユーザーはすべてのクラスタ・ノードに対して管理者権限を持っていない必要があります。

原因: アカウントにはすべてのクラスタ・ノードに対する管理者権限がないため、Oracle Fail Safe Server はクライアントを認証できませんでした。

処置: Oracle Fail Safe Manager へのログインに使用するアカウントが、すべてのクラスタ・ノードに対して管理者権限を持っていることを確認します。

FS-10212: Oracle Fail Safe Server はクラスタの全ノード上に同じユーザー・アカウントでインストールする必要があります。

原因: Oracle Fail Safe Server がクラスタの全ノード上に同じユーザー・アカウントでインストールされていません。

処置: 副次的メッセージを確認して異なるノードを特定し、変更する必要があるノードに対して Oracle Fail Safe Security Setup ユーティリティを実行します。Oracle Fail Safe Security Setup ユーティリティを実行するには、Windows のタスクバーから、「スタート」→「プログラム」→「Oracle - <Oracle_Home>」→「Oracle Fail Safe Security Setup」の順にクリックします。

FS-10213: Oracle Fail Safe Server はユーザー・アカウント %s でノード %s にインストールされます。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10220: ネットワーク名 %s はクラスタ・リソース内の IP アドレス %s にマップされますが、システム上の IP アドレス %s にもマップされます。

原因: IP アドレスのマッピング・エラーが発生しました。

処置: Oracle Fail Safe Server では、ネットワーク名に対する IP アドレス・マッピングがクラスタとシステムで同じになる必要があります。ネットワーク名サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルのどちらかに、クラスタと同じ IP アドレス・マッピングがあるかどうかを調べてください。

FS-10221: グループ %s が作成されましたが、グループには次の問題があります:

原因: グループは作成されましたが、IP アドレスとネットワーク名の間アドレス・マッピング・エラーがあります。

処置: Oracle Fail Safe Server では、ネットワーク名に対する IP アドレス・マッピングがクラスタとシステムで同じになる必要があります。ネットワーク名サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルのどちらかに、クラスタと同じ IP アドレス・マッピングがあるかどうかを調べてください。(ネットワーク問題のトラブルシューティングの詳細は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。)

FS-10222: ネットワーク名 %s をノード %s 上の IP アドレスに解決できません。

原因: ホスト名リゾルバ (gethostbyname) が、ネットワーク名を解決できません。

処置: ネットワーク名の解決に使用されるネットワーク管理データベースに、ネットワーク名が定義されているかどうかを調べます。

- FS-10223: 副次的エラーにより、ネットワーク名 %s を有効性検査の目的でシステム上の IP アドレスに解決することができません。**
- 原因:** 副次的エラーで示されている問題によって、ホスト名リゾルバ (gethostbyname) がネットワーク名を解決できません。
- 処置:** Windows Sockets 定義ファイルまたはマニュアルで、副次的エラーの原因を調べます。
- FS-10224: グループ %s は、ネットワーク名および IP アドレス・リソースの両方を含んでいません。**
- 原因:** 指定されたグループは、ネットワーク名と IP アドレス・リソースの両方を含んでいません。
- 処置:** ネットワーク名リソース、IP アドレス・リソース、またはその両方をグループに追加します。
- FS-10225: IP アドレス %s はホスト %s (Winsock) に解決されますが、%s のクラスタに依存するネットワーク名 (Netbios) があります。**
- 原因:** 指定された IP アドレスに対して、ホスト名とネットワーク名の間の一貫性がありません。指定された IP アドレスは、Windows Socket (Winsock) 機能によって解決されるホスト名を持っていて、それがクラスタ内で定義されたネットワーク名とは異なります。
- 処置:** その不一致を解決するために、Winsock 定義 (DNS またはホスト・ファイル) とクラスタ内のネットワーク名定義のどちらかを変更します。
- FS-10226: リソース %s は依存するネットワークを必要としますが、グループ %s 内に配置できませんでした。**
- 原因:** 指定されたリソースの依存性リストにはネットワーク名と IP アドレスが必要ですが、どちらも見つかりませんでした。
- 処置:** ネットワーク名リソース、IP アドレス・リソース、またはその両方をグループに追加して、指定されたリソースに対する必要な依存性をマップします。
- FS-10227: リソース %s はクラスタ・ディスクを必要としますが、グループ %s 内には見つかりませんでした。**
- 原因:** 指定されたクラスタ・リソースには、クラスタ・ディスクが必要です。しかし、グループ内にそのディスクがありません。
- 処置:** グループから問題となったリソースを削除して、再度追加します。
- FS-10228: リソース %s は、クラスタ・ディスク %s を必要とします。これはグループ %s 内に存在しません。**
- 原因:** 指定されたクラスタ・リソースには、指定されたクラスタ・ディスクが必要です。しかし、グループ内に指定されたディスクがありません。
- 処置:** 指定されたグループにクラスタ・ディスクを追加するか、もしくはグループから問題となったリソースを削除して、再度追加します。

FS-10229: リソース %s はネットワーク名リソースへの依存性がありません。

原因: 指定したリソースには必要なネットワーク名への依存性がありません。

処置: 「グループの検証」操作を再度実行して、指定したリソースのネットワーク名リソースへの依存性を確立します。

FS-10230: Oracle 8.1 リスナー %s は HOST パラメータにホスト名を使っています。IP アドレスを使うように変換する必要があります。

原因: Oracle Fail Safe では、起動されたすべての Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10231: リスナーは現在実行中です。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10232: リスナーは現在停止しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10233: リスナーを停止し、ホスト名を IP アドレスに変換し、その後リスナーを再起動しますか？

原因: Oracle Fail Safe では、起動されたすべての Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server にリスナーを停止させ、ホスト名を IP アドレスに変換してリスナーを再起動するには、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10234: Oracle Fail Safe でホスト名を IP アドレスに変換し、リスナーを起動しますか？

原因: Oracle Fail Safe では、起動されたすべての Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server でホスト名を IP アドレスに変換してリスナーを起動するには、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10235: 関連アクションを実行するには、リスナー %s を停止する必要があります。

原因: 関連アクションを実行するために、このリスナーを停止する必要があります。

処置: 副次的メッセージを参照してください。

FS-10240: IP アドレスを使用するための Oracle8.1 リスナー %s の再構成に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用するように再構成できませんでした。

処置: すべての Oracle8.1 リスナーの構成を調べます。すべての Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用するように、手動で再構成することを試行します。

FS-10241: 現在の操作を続行するためには、Oracle8.1 リスナー %s が IP アドレスを使用するように変換する必要があります。

原因: Oracle Fail Safe では、起動されたすべての Oracle8.1 リスナーが IP アドレスを使用する必要があります。

処置: システム上のリスナーを再構成して、起動しているすべての 8.1 リスナーが IP アドレスを使用していることを確認します。

FS-10242: ホスト %s の IP アドレスの取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたホストの IP アドレスを取得できませんでした。

処置: システムの TCP/IP 構成のネーム・サービスを調べてください。

FS-10243: 試みた操作は、このバージョンのデータベースではサポートされません。

原因: そのデータベースのバージョンは、試行された操作をサポートしていません。

処置: この操作のための正しいバージョンのデータベースを使用してください。

FS-10244: データベース・インスタンス %s ではサポートされていない AUTOSTART オプションがオンに設定されました。変更しますか？

原因: データベース・インスタンスは、Windows NT レジストリの変数 ORA_<SID>_AUTOSTART をオン (TRUE) に設定しました。データベースがフェイルセーフになるためには、このオプションはオフ (FALSE) に設定されている必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で Windows NT レジストリの設定を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。設定を自分で変更する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10245: データベース・インスタンス %s ではサポートされていない SHUTDOWN オプションがオンに設定されました。変更しますか？

原因: データベース・インスタンスは、Windows NT レジストリの変数 ORA_<SID>_SHUTDOWN をオン (TRUE) に設定しました。データベースがフェイルセーフになるためには、このオプションはオフ (FALSE) に設定されている必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で Windows NT レジストリの設定を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。設定を自分で変更する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10246: %s リスナーを変更するための操作を断りました。このリスナーの起動時に問題が発生する可能性があります。

原因: IP アドレスを使用するために Oracle 8.1 リスナーを変更するための操作を断りました。

処置: 現時点で必要な処置はありません。IP アドレスを使用するには、起動する前にリスナーを変更してください。

FS-10247: この操作のために指定したデータベース・パラメータ・ファイル %s はレジストリのパラメータ・ファイル値を上書きします。

原因: レジストリのパラメータ・ファイル値がユーザーの入力値と異なります。この操作では、ユーザーの入力値が使用されます。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10248: レジストリ・キー %s、%s の値は %s です。

原因: これは、指定したレジストリの場所から取得されたデータベース・パラメータ・ファイルのレジストリ値です。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10249: この操作のために指定したインスタンス名 %s はパラメータ・ファイルで見つかったインスタンス %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルの SID 値がユーザーの入力値と異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

2.6 FS-10250 から FS-10299 まで

FS-10250: この操作のために指定したデータベース名 %s はパラメータ・ファイルで見つかったデータベース名 %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルのデータベース名値がユーザーの入力値と異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

FS-10251: サービス名パラメータ %s (ネット・サービス名 %s で見つかった) はパラメータ・ファイルで見つかった値 %s と同じではありません。

原因: パラメータ・ファイルのサービス名パラメータ値が、ネット・サービス名のエントリと異なります。

処置: 値の違いを解決し、この操作を再度実行します。

FS-10252: パラメータ値の違いを解決するにはパラメータ・ファイル %s をチェックしてください。

原因: この操作におけるユーザーの入力とパラメータ・ファイルのパラメータ値の違いが見つかりました。

処置: 指定したパラメータ・ファイルを確認し、違いを解決します。

- FS-10255:** このノードに一意のデータベース・インスタンスの作成中にエラーが発生しました。削除してから再試行してください。
- 原因:** サンプル・データベースはこのクラスタに一意のインスタンスを作成できません。
- 処置:** 古いインスタンスを削除してから、再試行します。
- FS-10256:** データベース・パラメータ・ファイル %s が無効です。
- 原因:** Oracle Fail Safe Server がデータベース・パラメータ・ファイルを解析しようとしているときに、エラーが発生しました。
- 処置:** パラメータ・ファイル名を調べて、完全なファイル名を指定していることを確認します。
- FS-10257:** サンプル・ディスク・ドライブ %s の検査中にエラーが発生しました。
- 原因:** 「サンプル・データベースの作成」操作で指定されたディスク・ドライブが使用できませんでした。
- 処置:** 副次的なエラーを調べてから、再試行します。
- FS-10258:** このシステムのネットワーク名の取得中にエラーが発生しました。
- 原因:** GetComputerName のコールが失敗しました。
- 処置:** このシステムの名前が有効かどうかを調べてから、再試行します。
- FS-10259:** Net8 (または SQL*Net) のデフォルト・ドメイン名の取得中にエラーが発生しました。
- 原因:** デフォルトのドメイン名を入手するためのコールが失敗しました。
- 処置:** 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。
- FS-10260:** スタンドアロンのサンプル・データベース %s を作成しようとしたましたが、失敗しました。
- 原因:** 「サンプル・データベースの作成」操作が、失敗しました。
- 処置:** 副次的なエラーを調べてから、再試行します。
- FS-10261:** スタンドアロンのサンプル・データベース %s を削除しようとしたましたが、失敗しました。
- 原因:** 「サンプル・データベースの削除」操作が、失敗しました。
- 処置:** 副次的なエラーを調べてから、再試行します。
- FS-10262:** サンプル・データベース作成のスクリプト・ファイル %s を開けません。
- 原因:** Oracle Fail Safe Server は、「サンプル・データベースの作成」スクリプトのファイルをオープンできません。
- 処置:** 「サンプル・データベースの作成」スクリプト・ファイルがインストールされているかどうかを調べます。

FS-10263: Oracle Fail Safe Server で作成されたサンプル・データベースではないので、データベースを削除できません。

原因: Oracle Fail Safe サンプル・データベースではないデータベースを削除する選択をしました。

処置: 削除には、Oracle Fail Safe サンプル・データベースのみを選択してください。(Oracle Fail Safe サンプル・データベースとは、Oracle Fail Safe Manager の「データベース」メニューの「サンプル・データベースの作成」コマンドで作成されたデータベースです。)

FS-10264: スタンドアロン・データベースは、Oracle Fail Safe Server でサンプル・データベースとして作成されていません。

原因: サンプル・データベース情報を Windows NT レジストリから読み取ることができません。

処置: 削除するデータベースがサンプル・データベースであることを確認します。また、データベースが常駐するノードの Windows NT レジストリ項目が破損されていないことも確認します。レジストリ・ツリーは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥Failsafe¥SampleDB となります。

前述のレジストリ・ツリーにある文字列の値は次のとおりです。

名前: FS_<sid>_DB

値: <sid>、<service name>、<database name>、<parameter file>、<disk drive>

それぞれの値は次のとおりです。

<sid> はデータベース・インスタンス (例: OFS1)、
<service name> はデータベースのサービス名 (例: Sample.world)、
<database name> はデータベースの名前 (例: OFS1DB)、
<parameter file> はデータベース・パラメータ・ファイルの名前
(例: S:¥OFSDB¥OFS1¥PARAM¥FS_INIT.ORA)、
<disk drive> はサンプル・データベースが使用するドライブ (例: S:)

FS-10265: サービス名 %s を使ったサンプル・データベースは見つかりません。Windows NT レジストリ内のエントリは削除されています。

原因: スタンドアロン・データベースの

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥Failsafe¥SampleDB 内のサービス名エントリが無効です。

処置: Oracle Fail Safe は、レジストリ内のエントリを削除しました。処置は必要ありません。

FS-10266: ディスク %s のインスタンス %s にあるサンプル・データベースのディレクトリ・ツリーを削除できません。

原因: サンプル・データベースのディレクトリ・ツリーを削除しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: このデータベースのサンプル・データベース・ファイルが入っているディレクトリを手動で削除します。(<disk>%ofsdb¥<instance>¥...)

FS-10267: サービス %s のサンプル・データベース Windows NT レジストリ情報を削除できません。

原因: サンプル・データベースの Windows NT レジストリ情報を削除しようとして、エラーが発生しました。

処置: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FAILSAFE¥SAMPLEDB¥FS_<INST>_DB にある Windows NT レジストリ情報を手動で削除します。

FS-10268: 無効なノード %s がサンプル・データベース %s に対して指定されました。

TNSNAMES.ORA ファイル内のエントリをチェックしてください。

原因: サンプル・データベースを削除しようとしたときに、エラーが発生しました。指定されたノードは、クラスタの有効なノードではありません。

処置: サンプル・データベース情報は、TNSNAMES.ORA ファイルから取得されます。エントリをチェックして、データベースの正しいホスト名が指定されていることを確認します。

FS-10269: サンプル・データベース・ファイルを作成しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: 「サンプル・データベースの作成」操作で、クラスタ・ディスク上にサンプル・データベースのディレクトリを作成してデータを移入しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10270: Oracle Fail Safe サンプル・データベースのファイルがインストール・ディレクトリまたは CD-ROM に存在しません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、インストール・ディレクトリ <Oracle_Home>¥fssvr¥sample または CD-ROM 上でサンプル・データベース・ファイルを見つけられませんでした。

処置: Oracle Fail Safe のインストールを再実行して、必要なサンプル・データベース・ファイルをインストールするオプション、または Oracle Fail Safe CD-ROM をロードするオプションを選択します。

FS-10271: クラスタのスタンドアロン・データベースを一覧しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server でクラスタ内のスタンドアロン・データベースを一覧表示しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10272: スタンドアロン・データベース・ファイル %s を %s にコピーするときにエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server でスタンドアロン・データベースのイニシャル・ファイルをコピーするときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10273: クラスタ・ノード %s のデータベース SID を一覧しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server がデータベース SID をリストしようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10274: サンプル・データベース・スクリプトをコマンド - %s で実行しようとしたときにエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server がサンプル・データベース・スクリプトを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10275: ディスク %s はノード %s でオンラインではないため指定された操作には使用できません。

原因: クラスタ・ディスク・リソースは、現在のノード上でオフラインであるか、他のクラスタ・ノードにマウントされています。

処置: 目的のノードに対してディスクをオンライン化します。

FS-10280: リソースがオンラインになるまでの待機中にタイムアウトが発生しました。

原因: リソースがオンラインになるまでに、保留タイムアウト・パラメータで指定した時間を超過しました。

処置: グループ内のすべてのリソース（オンライン状態になるはずだったもの）が最終的にオンラインになっているかどうかを検証します。

FS-10281: ノード %s 上のグループを検証した結果、次の問題が見つかりました。問題の修正が要求されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループの検証中に1つ以上の問題を検出しました。このメッセージの次に、見つかった問題が一覧表示されます。問題の修復が要求されました。

処置: 修復に成功した場合は、処置は必要ありません。修復に失敗した場合は、手動で問題を解決してください。

FS-10282: ノード %s 上のグループを検証した結果、次の問題が見つかりました。問題の修正は要求されませんでした。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループの検証中に1つ以上の問題を検出しました。このメッセージの次に、見つかった問題が一覧表示されます。修復は要求されませんでした。

処置: 手動で問題を解決してください。

FS-10283: リスナー %s は %s で SID %s に定義されていますが古いようです。このリスナーの NT サービスが見つかりません。リスナーを削除します。

原因: この SID に対して複数のリスナーがあります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある LISTENER.ORA ファイルをチェックして、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの NT サービスも調べてください。

FS-10284: リスナー %s は %s で SID %s に定義されますが古いようです。このリスナーの NT サービス %s が起動していません。リスナーを削除します。

原因: この SID に対して複数のリスナーがあります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある LISTENER.ORA ファイルをチェックして、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの NT サービスも調べてください。

FS-10285: リスナー %s は %s で定義されていますが古いようです。このリスナーの NT サービスが見つかりません。リスナーを削除します。

原因: 使用できるリスナーが複数あります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある LISTENER.ORA ファイルをチェックして、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの NT サービスも調べてください。

FS-10286: リスナー %s は %s で定義されていますが古いようです。このリスナーの NT サービス %s が起動していません。リスナーを削除します。

原因: 使用できるリスナーが複数あります。

処置: すべての Oracle ホーム・ネットワーク構成ディレクトリにある LISTENER.ORA ファイルをチェックして、この SID の古いリスナーを削除します。各リスナーの NT サービスも調べてください。

FS-10287: ディスク %s をグループから削除できません。リソース %s がディスクに依存しています。

原因: 他のリソースがそのディスクに依存しているため、指定されたディスクをグループから削除できません。

処置: 処置は必要ありません。これは、ただの情報メッセージです。

FS-10288: パラメータ・ファイル %s がクラスタ・ディスク上に存在しません。

原因: データベース・パラメータ・ファイルがクラスタ・ディスク上にありません。データベースをオンライン化するには、全ノードの同じ場所でパラメータ・ファイルがアクセス可能である必要があります。

処置: パラメータ・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動するか、全ノードの同じ場所にパラメータ・ファイルをコピーします。

FS-10289: リモート・ディスク・ドライブがデータベースによってファイル %s に使用されています。

原因: データベース・ファイルによってリモート・ディスクが使用されています。データベースをオンライン化するには、全ノードでこのファイルがアクセス可能である必要があります。

処置: ファイルを共有ディスクに移動するか、全ノードでリモート・ディスクが使用可能であることを確認します。

2.7 FS-10300 から FS-10349 まで

FS-10300: Net8 (または SQL*Net) リスナーのリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) リスナーのリソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10301: Net8 (または SQL*Net) リスナーのリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) リスナー・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10305: 汎用リソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、汎用リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10306: 汎用リソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、汎用リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10307: %s リソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソース・タイプの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10308: %s リソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソース・タイプの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10310: IP アドレスのリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、IP アドレス・リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10311: IP アドレスのリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、IP アドレス・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10315: ディスク・リソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ディスク・リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10316: ディスク・リソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ディスク・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10320: データベース・リソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース・リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10321: データベース・リソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース・リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10325: ネットワーク名のリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ネットワーク名リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10326: ネットワーク名のリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ネットワーク名リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10330: Oracle Intelligent Agent のリソース %s を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10331: Oracle Intelligent Agent のリソース %s の依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Intelligent Agent リソースの依存性の検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10341: データベース %s の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたデータベースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10342: データベース %s の Net8 (または SQL*Net) 構成情報の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたデータベースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10343: データベース %s のデータベース・インスタンス情報の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたデータベースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10344: データベース %s の Oracle Intelligent Agent の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたデータベースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10345: スタンドアロン・データベース %s の検証が正常に完了しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたデータベースを正常に検証しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

- FS-10346:** スタンドアロン・データベース %s のクラスタワイドの検証が正常に完了しました。
原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ上の指定されたデータベースの検証を正常に完了しました。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10347:** データベース %s の状態をチェックしています。
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したデータベースの状態のチェックを開始しています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10348:** データベース・インスタンス %s が停止しています。データベースを起動しますか？
原因: 指定されたデータベース・インスタンスが停止されているため、検証が行えません。
処置: データベースを起動する場合は、「はい」と応答します。
- FS-10349:** データベース・インスタンス %s が稼働していません。データベースを停止して再起動しますか？
原因: 指定されたデータベース・インスタンスが稼働していないため、検証が行えません。
処置: データベースを停止して再起動する場合は、「はい」と応答します。

2.8 FS-10350 から FS-10399 まで

- FS-10350:** データベース %s を起動します。
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースを起動します。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10351:** クラスタ・ディスク %s 上にディレクトリ・ツリーを作成し、データを移入しています。
原因: 指定されたクラスタ・ディスクの新しいデータベースに、ディレクトリ・ツリーを作成し、移入しています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10352:** データベース・インスタンス %s をサンプル・データベースに対して作成しています。
原因: 新規データベース・インスタンスを作成しています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10353: サンプル・データベースを作成するスクリプトを実行中です。

原因: 新規サンプル・データベースを作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10354: サービス名 %s の Net8 (または SQL*Net) リスナーを定義しています。

原因: Net8 (または SQL*Net) リスナーを定義しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10356: サービス名 %s のデータベースの有効性を検査しています。

原因: サンプル・データベースの有効性検査を行っています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10358: %s がクラスタ・ディスク %s に作成されました。

原因: 「サンプル・データベースの作成」操作で、サンプル・データベース・ファイルが共有ディスク上の指定されたディレクトリ位置にコピーされました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10359: サービス名: %s

原因: これは、サンプル・データベースに使用されるサービス ID です。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10360: インスタンス名: %s

原因: これは、サンプル・データベース用に作成されたインスタンス名です。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10361: データベース名: %s

原因: これは、サンプル・データベース用に作成されたデータベース名です。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10362: パラメータ・ファイル: %s

原因: これは、サンプル・データベースに使用されるパラメータ・ファイルです。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10363: データベース・バージョン: %s

原因: これは、サンプル・データベースのデータベース・バージョンです。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10370: リソース %s をグループ %s に追加しています。

原因: 指定されたグループにリソースを追加しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10371: %s: 初期化処理を実行中です。

原因: 指定した操作の初期化処理を行っています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10372: %s: リソース所有者情報を収集中です。

原因: リソース所有者情報を収集しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10373: %s: リソース %s の所有者ノードを判断中です。

原因: 指定したリソースの所有者ノードを判断するために所有者情報を分析しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10374: %s: 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を収集中です。

原因: 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を収集しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10375: %s: 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を分析中です。

原因: 指定した操作の実行に必要なクラスタ情報を分析しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10376: %s: リソース %s の構成を開始します。

原因: 指定したリソースの構成を開始します。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10377: %s: リソース %s のリソース情報の有効性を検査しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに関するリソース情報の有効性をチェックしています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10378: %s: リソース %s の構成を準備中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したリソースの構成を準備しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10379: %s: グループ %s をオンラインにしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループをオンライン化しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10380: %s: %s の仮想サーバー情報を構成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、仮想サーバー情報を構成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10381: %s: リソース %s のリソース情報を作成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに関するリソース情報を作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10382: %s: リソース %s をオンラインにしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースをオンライン化しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10383: %s: リソース %s をオフラインにしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースを停止しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10384: リソース %s はグループ %s に正しく追加されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したリソースを指定したグループに正常に追加しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10385: %s: リソース %s の構成が完了しました。

原因: 指定されたリソースの構成が完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10386: データベース %s (ノード %s) に接続できません。

原因: Oracle Fail Safe は、指定されたノードの指定されたデータベースへの接続に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10387: データベース %s への接続の検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースへの接続の検証に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10389: データベース %s は使用できません。

原因: 指定されたデータベースが使用不能であることがわかりました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10390: データベース %s が稼働しているか確認するチェックに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベースが稼働しているかのチェックに失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

2.9 FS-10400 から FS-10449 まで

FS-10400: データベースはアーカイブ・ログ・ファイル %s にクラスタ化されていないディスクを使用しています。

原因: データベースが、指定したクラスタ化されていない（非共有）ディスクをアーカイブ・ログ・ファイルに使用しています。

処置: 可用性の高いデータベースとして構成するためには、そのすべてのデータベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに格納する必要があります。データベース・ファイルを共有クラスタ・ディスクに移動してください。

FS-10421: OS 認証のために REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを %s に %s 内で設定します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、OS 認証のため init.ora ファイルの REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10422: OS 認証使用時には REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定する必要があります。

原因: Oracle Fail Safe は、データベースが OS 認証を使用していることを検出しています。init.ora ファイルの REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定する必要があります。

処置: init.ora ファイルの REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定してください。その後、「はい」をクリックします。操作を中断する場合は、「いいえ」をクリックします。パラメータに他の値を使用する場合は、データベースをフェイルセーフにする際にユーザー名およびパスワードを入力します。

FS-10423: %s ファイル（ノード %s）のパラメータを変更して、継続するには「はい」、操作を取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

原因: Oracle Fail Safe は、データベースが OS 認証を使用していることを検出しています。init.ora ファイルの REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定する必要があります。

処置: init.ora ファイルの REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE パラメータを NONE に設定してください。その後、「はい」をクリックします。操作を中断する場合は、「いいえ」をクリックします。パラメータに他の値を使用する場合は、データベースをフェイルセーフにする際にユーザー名およびパスワードを入力します。

FS-10424: データベース %s がオンラインかどうかをチェックしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース・インスタンスが稼働中かどうかを調べています。起動されていない場合は、Oracle Fail Safe Server がそのインスタンスを起動します。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10425: データベース %s で使われるディスクを問い合せています。

原因: Oracle Fail Safe Server はデータベースによって使用されるディスクを問い合わせて、それがクラスタ・ディスクであるかどうかを検証しています。その後、そのディスクをグループに移動、もしくはグループ内でディスクを作成します。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10426: データベース・リソース %s をグループ %s に追加しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、インスタンスに Oracle データベース・リソースを追加しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10427: データベース・インスタンス %s を TNS サービス名 %s に対して作成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された TNS サービス名に対するデータベース・インスタンスを作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10428: リソース %s のグループ %s からの削除を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループから指定されたリソースを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10430: %s: リソース %s の仮想サーバー構成を変更中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースの仮想サーバー構成を変更しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10431: %s: リソース %s のリソース情報を削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに関するリソース情報を削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10432: リソース %s はグループ %s から削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループから指定されたリソースを削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10433: データベース・インスタンス %s をノード %s から削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上のデータベース・サーバー・インスタンスを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10434: データベース・リソース %s をグループ %s から削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループから指定されたデータベース・リソースを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10435: データベース・ディスク %s をディスク・グループ %s に移動しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース・ディスクを事前定義済みのグループに移動しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10436: NT サービス %s の起動に失敗しました。

原因: 指定された NT サービスが起動できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10437: NT サービス %s の作成に失敗しました。

原因: 指定された NT サービスが作成できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10438: NT サービス %s が見つかりませんでした。

原因: 指定された NT サービスが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10439: ファイル %s の検索に失敗しました。

原因: 指定されたファイルが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10440: サービス コントロール マネージャを開くときに失敗しました。

原因: サービス コントロール マネージャが開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10441: NT サービスの列挙に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Windows NT サービスのリストを取り出せませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10442: ディレクトリ %s の検索に失敗しました。

原因: 指定されたディレクトリが見つかりませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10443: ディレクトリ %s の作成に失敗しました。

原因: 指定されたディレクトリが作成できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10444: 無効なディレクトリ構文が指定されました: %s

原因: ディレクトリ指定の構文が無効です。

処置: ディレクトリ指定の構文を調べます。

FS-10445: Windows NT サービス %s の問合せに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された NT サービスの問合せに失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10446: ファイル %s の作成に失敗しました。

原因: 指定されたファイルを作成できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10447: ファイル %s のサイズ取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたファイルのサイズを取得できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10448: ファイル %s からの読込みに失敗しました。

原因: 指定されたファイルに対する読込み操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10449: ディレクトリ %s が作成されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたディレクトリを作成しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

2.10 FS-10450 から FS-10499 まで

FS-10450: スタンドアロン・サンプル・データベース %s の削除を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたサンプル・データベースを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10451: サンプル・データベースでの DBA 権限についてアカウント %s の有効性を検査しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース管理者 (DBA) 権限を使用してデータベースにログオンしています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10452: サンプル・データベース %s を起動しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、サンプル・データベースを起動しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10453: サンプル・データベース %s を停止しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、サンプル・データベースを停止しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10454: サンプル・データベース %s の Net8 (または SQL*Net) リスナーおよび TNSNAMES エントリを削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたサンプル・データベースに対する Net8 (または SQL*Net) リスナーおよび TNSNAMES エントリを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10455: インスタンス %s (サンプル・データベース %s) を削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたサンプル・データベースのデータベース・インスタンスを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10456: ディスク %s にあるサンプル・データベースのツリー・ビューのエントリを削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたディスク上のサンプル・データベースに対するツリー・ビューのエントリを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10457: サービス名 %s のサンプル・データベースが削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、サンプル・データベースを正常に削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10461: %s: グループ %s の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10462: %s: グループ %s の情報をロードしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループに関する情報をロードしています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10463: %s: グループ %s のグループ属性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの属性を検証しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10464: %s: グループ %s のリソースの属性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたグループにある全リソースの属性を検証しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10465: %s: グループ %s のリソースの依存性を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたグループにある全リソースの依存性を検証しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10466: %s: グループ %s の検証が正常に完了しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたグループを正常に検証しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10467: プロパティを変更するには Oracle Intelligent Agent をオフラインにする必要があります。エージェントをオフラインにしますか？

原因: エージェントのプロパティを変更しようとしています。プロパティを変更するにはエージェントをオフラインにする必要があります。

処置: Agent をオフラインにする場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、プロパティは変更されません。

FS-10468: リソース %s はデータベース %s で使用されていますが、グループ %s 内には存在しません。追加しますか？

原因: データベースが使用するディスク・ドライブが、グループ内にありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10469: ノード %s で Net8 (または SQL*Net) にエラーが検出され、データベースをオフラインにする必要があります。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Net8 (または SQL*Net) 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が実行されます。Net8 (または SQL*Net) の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10470: %s のデータベース・インスタンスがノード %s 上に存在しません。Oracle Fail Safe Server で作成しますか？

原因: 検証操作によって、そのデータベースに対する Oracle データベース・インスタンスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Oracle データベース・インスタンスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10471: Oracle Intelligent Agent のサービス %s がノード %s 上に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに、Oracle Intelligent Agent NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Oracle Intelligent Agent NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10472: Oracle Intelligent Agent の Windows NT レジストリ情報がノード %s 上に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに、Oracle Intelligent Agent の Windows NT レジストリ情報が存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Windows NT レジストリ情報を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10473: ノード %s の Oracle Intelligent Agent の Windows NT レジストリ情報に誤りがあります。訂正しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノードの、Oracle Intelligent Agent に対する Windows NT レジストリ情報が不適切なことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Windows NT レジストリ情報を訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10474: Oracle データベースのない Oracle Intelligent Agent が見つかりました。グループから削除しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle データベースを持たない Oracle Intelligent Agent がグループ内で見つかりました。Oracle データベースを持たない Oracle Intelligent Agent を使用できるのは、仮想サーバー・ノードが起動しているか停止しているかを監視する場合に限ります。

処置: Oracle Fail Safe Server で Oracle Intelligent Agent をグループから削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10475: データベースを再検出するには Oracle Intelligent Agent を再起動する必要があります。再起動しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Intelligent Agent が Oracle データベースの正しいセットを検出していないことがわかりました。これは、Oracle Intelligent Agent に対する Windows NT レジストリ情報が間違っている場合に、発生することがあります。

処置: Oracle Fail Safe Server でそのグループの Oracle Intelligent Agent を再起動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。Oracle Intelligent Agent を再起動すると、このグループに対して現在実行されているジョブがすべて強制終了します。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。

FS-10476: データベースを再検出するのにノード %s でデフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動しますか？

原因: 操作によって、デフォルトの Oracle Intelligent Agent が Oracle データベースの正しいセットを検出していないことがわかりました。これは、サンプル・データベースが作成されたときやサンプル・データベースが削除されたときに発生する場合があります。

処置: Oracle Fail Safe Server でデフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動する場合は、メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。デフォルトの Oracle Intelligent Agent を再起動すると、現在実行されているジョブがすべて強制終了します。

FS-10477: Net8 (または SQL*Net) エラーです。データベースをオフラインにし、%s に移す必要があります。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Net8 (または SQL*Net) 構成ファイルに問題が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。Net8 (または SQL*Net) の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10478: バージョン不一致で、%s のデータベース・インスタンスはノード %s で再作成が必要です。修正しますか？

原因: 検証操作によって、データベース・インスタンスに問題が見つかりました。この問題の原因として最も可能性が高いのは、データベースのバージョンとデータベース・インスタンスのバージョンが異なることです。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作はグループの検証を続行します。「はい」をクリックすると、古いデータベース・インスタンスが削除され、新しいインスタンスが作成されます。

FS-10479: リソース %s を完全に検証するには、オンラインにする必要があります。オンラインにしますか？

原因: 「グループの検証」操作の結果、オンラインではないリソースがグループ内に見つかりました。リソースの完全な検証を実行するためには、リソースをオンライン化する必要があります。

処置: リソースをオンライン化するには、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、そのリソースの限定的な検証を実行します。

FS-10480: %s: グループ %s の %s への移動を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、別のノードへのグループの移動を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10481: %s: 移動を行うためのリソース固有の操作を実行中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、移動操作の実行に先立つ正常停止の準備として、リソース固有の操作を実行しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10482: %s: グループ %s を %s に移動しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、あるノードから別のノードにグループを移しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10483: %s: グループ %s を %s に移動する操作の完了を待機中です。

原因: 開始された移動が完了するのを待機しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10484: %s: グループ %s が %s に正常に移動されました。

原因: グループを別ノードに移動する操作が、正常に完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10485: %s: データベース %s のチェックポイントを実行中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベースのチェックポイント操作を実行しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10486: %s: データベース %s を停止しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、データベース・サーバーを停止しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10487: Net8 (または SQL*Net) リスナーがデータベースなしで見つかりました。グループから削除しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle データベースを持たない Net8 (または SQL*Net) リスナーがグループ内で見つかりました。Oracle データベースを持たない Net8 (または SQL*Net) リスナーという構成は、無効です。

処置: Oracle Fail Safe Server で Net8 (または SQL*Net) リスナーをグループから削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。

FS-10488: %s: 操作のロールバックを開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノードに対する操作のロールバックを開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10489: %s: 操作のロールバックが完了しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノードに対する操作のロールバックを完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10490: %s の Net8 (または SQL*Net) リスナーを構成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Net8 (または SQL*Net) リスナー情報を構成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10491: %s の Net8 (または SQL*Net) サービス名を構成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定のノード上で TNS サービス名を構成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10492: リソース %s はネットワーク名リソースに依存性を持つ必要があります。リソース %s をリソース %s に依存させますか？

原因: 指定したリソースには必要なネットワーク名への依存性がありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10493: %s: 操作のロールバックを行おうとしたときにエラーが発生しました。

原因: ロールバック操作の最中にエラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。「検証」コマンドを実行してリソースに伴う問題を解決し、操作を再試行します。

FS-10494: %s: CANCEL_ROLLBACK トレース・フラグでロールバックがオフにされました。

原因: トレース・フラグによって、ロールバック・ロジックがオフにされました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10495: 操作のクラスタワイド・ロールバックが完了しました。

原因: 現在の操作にエラーが発生しました。Oracle Fail Safe Server は操作をロールバックしました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10496: %s の Net8 (または SQL*Net) 移行計画の生成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベースの Net8 (または SQL*Net) 移行計画を作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10497: 操作のクラスタワイド・ロールバックを開始します。

原因: 現在の操作にエラーが発生しました。Oracle Fail Safe Server は操作を取り消します。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10498: Oracle Fail Safe Server は、要求に従って操作を取り消しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、要求に従って操作を取り消しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10499: Oracle Fail Safe Server は静止モードで実行しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は静止モードで実行していますが、ユーザーからの入力が必要です。

処置: 通常の冗長モードでその操作を実行します。

2.11 FS-10500 から FS-10549 まで

FS-10500: %s: クラスタ %s の検証を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10501: %s: Oracle Fail Safe のインストールを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、すべてのクラスタ・ノード上の Oracle Fail Safe のインストールの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10502: %s: Oracle ホームを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ上の全 Oracle ホームの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10503: %s: ネットワーク構成を検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ・ネットワークとノード名のマッピングの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10504: %s: クラスタの検証が完了しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの検証を完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10505: %s 上の Net8 (または SQL*Net) 構成は、IP アドレス %s (ホーム %s) に対して構成されていません。アドレスをリスナー %s に追加しますか？

原因: 指定されたノードは複数の IP アドレスにマップされます。Net8 (または SQL*Net) リスナーが、指定されたすべての IP アドレスで完全に実行するように構成されていないため、クライアントが指定されたノード上のデータベースに接続できない可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で IP アドレスを Net8 (SQL*Net) リスナーに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。

- FS-10506: リスナーへの IP アドレス %s の追加を Oracle ホーム %s (ノード %s) で開始します。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたノード上の指定されたホームで、指定された IP アドレスを Net8 リスナーに追加する処理を開始しています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10507: ** エラー: IP アドレスを追加した後で、リスナー %s の起動に失敗しました。ロールバックを開始しています。**
原因: Oracle Fail Safe Server で指定されたリスナーに IP アドレスを追加した後、そのリスナーを起動できません。
処置: これは情報メッセージです。操作の警告メッセージを参照してください。
- FS-10508: ** エラー: リスナー %s の停止に失敗しました。ロールバックを開始しています。**
原因: 新規 IP アドレスでリスナーを再起動する前に、指定されたリスナーを停止するのに失敗しました。
処置: これは情報メッセージです。操作の警告メッセージを参照してください。
- FS-10509: リスナー %s に対する変更をロールバックしています。**
原因: 指定されたリスナーに対する変更がロールバックされています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10510: クラスタ上の %s ネットワークはサブネット %s を使っています。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、Microsoft Cluster Server からクラスタ・ネットワーク情報を取得しました。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10511: %s のクラスタワイドの有効性検査: %s**
原因: Oracle Fail Safe Server は、すべてのノードのホスト名情報を比較しています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10512: %s は %s (%s 上) にマップされます。**
原因: これは、ホスト上から見た場合の、ホスト名から IP アドレスへのマッピングです。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10513: %s は %s (%s 上) にマップされます。**
原因: これは、ホスト名から、ホスト上に構成されている 1 つ以上の IP アドレスへのマッピングです。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10514: ** 警告 : IP マッピングが原因で問題が発生した可能性があります。後に続く警告メッセージを参照してください。

原因 : 警告メッセージが生成され、表示されます。

処置 : 警告メッセージを参照してください。

FS-10515: %s ホストの IP 変換が矛盾しています。Network Adapter の順序が誤っているようです。マニュアルを参照してください。

原因 : ホスト名から IP アドレスへの変換が、すべてのクライアントおよびクラスター・ノードで一貫していません。ホスト名が正しく登録されていない、またはネットワーク・アダプタの順序が正しくありません。複数のネットワーク・アダプタを伴うシステムで、Windows NT が最初に見るネットワーク・アダプタが、システムの残りの部分に既知の IP アドレスを使用するように構成されていない場合、ネットワークに依存する製品（たとえば、Oracle Intelligent Agent または Oracle SQL*Net リスナー）で問題が起きる可能性があります。

処置 : この問題の詳細と提案される回避策は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10516: %s ホストの IP 変換に一貫性がなく、Oracle Fail Safe が動作できません。ネーム・サービスかホスト・ファイル調べてください。

原因 : クラスター内の全ノードの IP アドレス構成に誤りがあります。Oracle Fail Safe の操作中、Oracle データ・サーバーと Oracle Fail Safe コンポーネントは TCP/IP ネットワーク・トランスポートを使用して相互に通信します。使用される各ホスト名は、関連するすべてのシステム上の正しい IP アドレスにマップされている必要があります。Oracle Fail Safe は、クラスターのすべてのノードおよび Oracle Fail Safe Manager が稼働しているノードで、指定されたホストの IP アドレス・マッピングを比較しました。その結果、一部のノードからは、このホスト名に対して同じ IP アドレスが返されないことが確認されました。この問題は通常、これらのノードに登録されたホスト名と IP アドレスのマッピングの不一致から発生します。

処置 : ネーム・サービス (DNS、WINS) または HOSTS ファイルを修正し、関係するすべてのノード (クラスター・ノードおよび Oracle Fail Safe Manager が稼働しているノード) で、ホストを同じ IP アドレスにマップします。

FS-10517: ノード %s のネットワーク情報をロードできません。

原因 : ノードのネットワーク情報をロードできません。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置 : Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

- FS-10518: ノード %s の Net8 (SQL*Net) 構成が、IP アドレス %s 用に構成されていません。リスナーにアドレスを追加しますか？**
原因: 指定されたノードは複数の IP アドレスにマップされます。このノードの Net8 (SQL*Net) リスナーが、指定された IP アドレスで実行するように構成されていないため、クライアントがデータベースに接続できない可能性があります。
処置: この問題を解決することを強くお勧めします。この問題を解決するには、「クラスタの検証」コマンドを再実行します。
- FS-10519: ノード %s の Net8 (SQL*Net) 構成にリスナーが存在しません。IP アドレス %s のリスナーを作成してください。**
原因: 指定されたノードは複数の IP アドレスにマップされます。Net8 (または SQL*Net) 構成にリスナーが含まれていないため、クライアントがデータベースに接続できない可能性があります。
処置: この問題を解決することを強くお勧めします。この問題を解決するには、「クラスタの検証」コマンドを再実行します。
- FS-10520: %s では、%s に Oracle があります。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたホストから情報を問い合わせています。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10521: Oracle ホーム %s、バージョン %s がノード上に存在します: %s**
原因: メッセージには、指定されたホームが存在するノードが一覧表示されます。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10522: ** 警告: Oracle ホーム %s、バージョン %s がノード: %s 上に存在し、ノード: %s には存在しません。**
原因: Oracle ホームが、クラスタのすべてのノードで同一になっていません。
処置: Oracle を再インストールし、Oracle ホームがクラスタのすべてのノード上で同一になるようにします。
- FS-10523: ** 警告: Oracle のインストールが原因で問題が発生した可能性があります。後に続く警告メッセージを参照してください。**
原因: 警告メッセージが生成され、表示されます。
処置: 警告メッセージを参照してください。

FS-10524: Oracle ホームがクラスタの全ノードで同じではありません。Oracle Fail Safe は特定の操作でエラーになる可能性があります。

原因: Oracle ホームが、クラスタのすべてのノードで同一になっていません。クラスタワイド操作のほとんどは、すべてのクラスタ・ノードの、同じ Oracle ホームに適用されます。したがって、これらの操作は、クラスタの各ノード上に同じ Oracle ホームが存在する場合のみに作動します。Oracle ホームと Oracle Fail Safe の相互作用の詳細は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

処置: Oracle を再インストールし、Oracle ホームがクラスタのすべてのノード上で同一になるようにします。

FS-10525: ノード %s の Oracle インストール情報をロードできません。

原因: ノード上の Oracle インストール情報をロードしようとしたのですが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10530: %s に、Oracle Fail Safe バージョン %s があります。

原因: Oracle Fail Safe の指定されたバージョンが、指定されたノード上にインストールされています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10531: ** 警告: Oracle Fail Safe インストレーションが原因で問題が発生しました。次の警告メッセージを参照してください。

原因: 警告メッセージが生成され、表示されます。

処置: 警告メッセージを参照してください。

FS-10532: Oracle Fail Safe のバージョンは全クラスタ・ノードで同じではありません。Oracle Fail Safe が作動しない可能性があります。

原因: Oracle Fail Safe ソフトウェアが正しくインストールされていません。各クラスタ・ノードに、同じバージョンの Oracle Fail Safe Server がインストールされている必要があります。

処置: 全クラスタ・ノードに、Oracle Fail Safe ソフトウェアを正しく再インストールします。

FS-10533: ノード %s の Oracle Fail Safe 情報をロードできません。

原因: ノード上の Oracle Fail Safe 情報をロードしようとしたのですが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステム上で、ホスト名から IP アドレスへのマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10534: %s に %s があります。

原因: 指定されたリソース DLL は、指定されたクラスタ・ノード上にあります。

処置: この DLL が、インストールされた Oracle Fail Safe に対して予定されているものかどうかを調べます。

FS-10535: Oracle Fail Safe Server がこのリソース・タイプのプロパティを変更しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、リソース・タイプのプロパティを読み込めないため、適切なリソース DLL (Oracle データベース・サーバーの場合は fsResodbs.dll、Oracle Application Server の場合は fsResOas.dll) を指すようにリソース・タイプ DLL を変更しました。

処置: Oracle Fail Safe Server がインストールされているディレクトリに Oracle リソース DLL (fsResodbs.dll または fsResOas.dll、あるいはその両方) が存在することと、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認してから、すべてのクラスタ・ノードを再起動します。

FS-10536: Oracle Fail Safe Server は、ノード %s 上の Oracle データベース・リソース DLL を見つけることができません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle データベース・リソース DLL を見つけることができません。

処置: Oracle Fail Safe Server がインストールされているディレクトリに、Oracle データベース・リソース DLL である fsResodbs.dll が存在することを確認してください。存在しない場合は、Oracle Fail Safe Server を再インストールします。

FS-10537: Oracle Fail Safe Server は、クラスタに Oracle データベース・リソース DLL を登録できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタに Oracle データベース・リソース DLL を登録できません。

処置: Oracle Fail Safe Server がインストールされているディレクトリに Oracle データベース・リソース DLL である fsResodbs.dll が存在し、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認します。

FS-10538: 変更を有効にするには全クラスタ・ノードをリブートする必要があります。

原因: Oracle Fail Safe Server は、リソース・タイプのプロパティを読み込めないため、適切なリソース DLL (Oracle データベース・サーバーの場合は fsResodbs.dll、Oracle Application Server の場合は fsResOas.dll) を指すようにリソース・タイプ DLL を変更しました。

処置: Oracle Fail Safe Server がインストールされているディレクトリに Oracle リソース DLL (fsResodbs.dll または fsResOas.dll、あるいはその両方) が存在することと、そのディレクトリがシステム・パスとユーザー・パスに含まれていることを確認してから、すべてのクラスタ・ノードを再起動します。

FS-10540: クラスタの検証に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタを検証できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10541: ** 警告: ノード %s の情報をロードできません。

原因: 特定のノード上の情報をロードしようとしたましたが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムの、ホスト名と IP アドレスの間のマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10542: クラスタの検証操作を完全に実行するためにすべてのノードの情報をロードすることができません。

原因: 特定のノード上の情報をロードしようとしたましたが、失敗しました。Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムで、このホスト名が間違った IP アドレスにマップされている可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Manager を実行しているシステムの、ホスト名と IP アドレスの間のマッピングが正しいかどうかを調べます。

FS-10543: マルチノード・クラスタは Local Quorum タイプのクオラム・リソースを持ってません。

原因: Oracle Fail Safe では、クラスタ内に2つ以上のノードがある場合、クラスタのクオラム・リソースがクラスタ・ディスクに常駐している必要があります。Oracle Fail Safe Server は、クラスタのクオラム・リソースが Local Quorum のリソース・タイプを使用していることを検出しました。

処置: Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用して、クラスタのクオラム・リソースを変更します。

FS-10544: %s: クラスタのクオラム・リソースを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタのクオラム・リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10545: クラスタのクオラム・リソース %s は %s に置かれます。

原因: 「クラスタの検証」操作中に、クオラム・リソースとともにその場所が表示されます。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

- FS-10546: Local Quorum リソース・タイプを持つリソース %s がクラスタで検出されませんでした。**
原因: 「クラスタの検証」操作により、Local Quorum のリソース・タイプが見つかりました。
処置: Local Quorum リソースが不要な場合は、Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用してリソースを削除します。
- FS-10547: Oracle ホームの bin ディレクトリ %s が PATH 環境変数に存在しません。**
原因: PATH 環境変数が Oracle インストールと一致していません。
処置: PATH 環境変数を修正して、システムを再起動します。
- FS-10548: PATH 環境変数に Oracle Fail Safe の bin ディレクトリ %s が存在しません。**
原因: Oracle Fail Safe では、インストール後にクラスタ・ノードをリポートする必要があります。ノードがリポートされていない可能性があります。
処置: クラスタ・ノードをリポートします。
- FS-10549: Oracle Fail Safe リソース DLL %s (リソース・タイプ %s) がロードできませんでした。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソース DLL をロードできません。
処置: Oracle Fail Safe Server インストールをチェックし、適切な Oracle Fail Safe コンポーネントがインストールされていることを確認します。

2.12 FS-10550 から FS-10599 まで

- FS-10550: グループに、異なる Oracle ホームのリソースが含まれています。**
原因: グループ内のリソースは、異なる Oracle ホームのリソースです。
処置: その全リソースをグループから削除してから再び追加し、同じ Oracle ホームのリソースのみが含まれるようにします。
- FS-10551: このグループの Oracle ホームを判別できません。**
原因: Oracle Fail Safe Server がその Oracle ホームを判別するために必要な情報が、グループに含まれていません。
処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。
- FS-10552: クラスタの Oracle ホームの一覧に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの Oracle ホームを一覧表示できません。
処置: Oracle Fail Safe Server (fssvr.exe) が全クラスタ・ノード上で稼働していることを確認します。

FS-10553: クラスタ内の共通 Oracle ホームを見つけることができません。(同じホーム名とデータベース・サーバー・バージョン)

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの全ノードで同じ Oracle ホームを見つけることができません。各クラスタ・ノードに存在している Oracle ホーム名と Oracle ホームのバージョンは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10554: データベース %s は、ノード %s 上に存在しない Oracle ホーム %s に属していません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの一方のノードにのみ存在する Oracle ホームから、データベースを参照しようとしていました。クラスタの各ノードに存在する Oracle ホームは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10555: バージョン %s の Oracle ホーム %s がノード %s に存在しません。

原因: Oracle Fail Safe Server では、Oracle ホームの指定されたバージョンがクラスタの一方のノードにのみ存在することがわかりました。クラスタの各ノードに存在する Oracle ホームは、一致する必要があります。

処置: クラスタ内の Oracle ホームを更新し、それらが対称になるようにします。

FS-10556: リソース %s は Oracle ホーム %s に属しています。Oracle ホーム %s のリソースが存在するグループには追加できません。

原因: 1つのグループには、1つの Oracle ホームのリソースのみ含むことができます。追加しようとしているリソースは、グループの既存のリソースと同じ Oracle ホームに属していません。

処置: グループには1つの Oracle ホームのリソースのみを追加します。

FS-10557: Windows NT レジストリからの Oracle ホーム情報の読み込みに失敗しました。

原因: Windows NT レジストリから、Oracle ホーム情報を読み込もうとしました。

処置: Windows NT レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。

FS-10558: このリソース %s の Oracle ホームを判別できません。

原因: このリソースがどの Oracle ホームに属しているのか、判断できません。

処置: Windows NT レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。

FS-10559: 指定されたパスの Oracle ホーム情報の処理に失敗しました。

原因: 指定されたパスの Oracle ホーム情報を処理できません。

処置: Windows NT レジストリ内の Oracle ホーム情報が正しいことを確認します。また、指定されたホームが Windows NT パスに含まれていることも確認します。

FS-10560: %s: グループ %s の作成を開始します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタのグループの作成を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10561: %s: IP アドレス %s とネットワーク名 %s のクラスタ・リソースを作成中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、グループに IP アドレス・リソースとネットワーク名リソースを作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10562: %s: %s の仮想サーバー情報の有効性を検査しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、仮想サーバーのネットワーク情報の有効性をチェックしています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10563: %s: グループ %s が正常に作成され、ノード %s 上でオンラインになっています。

原因: 「グループの作成」操作が正常に完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10565: ノード %s 上の Net8 (または SQL*Net) 構成が正しくありません。Oracle Fail Safe Server で修正しますか？

原因: 検証操作によって、Net8 (または SQL*Net) 構成に問題が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Net8 (または SQL*Net) の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10566: ノード %s 上の Net8 (または SQL*Net) クライアント構成 (TNSNAMES.ORA) が正しくありません。修正しますか？

原因: 検証操作によって、Net8 (または SQL*Net) クライアント構成に問題が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Net8 (または SQL*Net) の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10567: ノード %s はこのデータベースを所有していませんが、Net8（または SQL*Net）構成でそれを参照しています。参照を削除しますか？

原因: 「スタンドアロン・データベースの検証」操作によって、データベースを所有していないクラスター・ノード上の Net8（または SQL*Net）構成内に、そのデータベースへの参照が見つかりました。このため、将来そのデータベースをグループに追加するときに問題が起きる可能性があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、その参照を削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Net8（または SQL*Net）の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10568: ノード %s はこのデータベースを所有していませんが、Net8（または SQL*Net）構成でそれを参照しています。参照を削除しますか？

原因: 「スタンドアロン・データベースの検証」操作によって、データベースを所有していないクラスター・ノード上の Net8（または SQL*Net）クライアント構成ファイル（TNSNAMES.ORA）内に、そのデータベースへの参照が見つかりました。Oracle Fail Safe Server は、リモート・ノード上の情報を検証できません。したがって、その参照を削除する必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、その参照を削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。Net8（または SQL*Net）の構成に関する問題のトラブルシューティング方法についての提案は、『Oracle Fail Safe 概要および管理ガイド』を参照してください。

FS-10569: ノード %s はデータベースを所有していませんが、重複するデータベース・インスタンス %s を所有しています。重複を削除しますか？

原因: 「スタンドアロン・データベースの検証」操作により、データベースを所有していないクラスター・ノード上に重複するインスタンスが見つかりました。これは、このデータベースをグループに追加するときに、問題になります。スタンドアロン・データベースをフェイルセーフにするためには、そのデータベース・インスタンスがクラスター内で一意になる必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、このインスタンスを削除して問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10570: ノード %s で Net8 (または SQL*Net) 構成の問題が検出されましたが、修復されていません。

原因: 検証操作によって Net8 (または SQL*Net) 構成に問題が見つかりましたが、Oracle Fail Safe Server で問題を修復するかどうかを確認されたときに、ユーザーは「いいえ」をクリックしました。検証操作は、この問題を解決しないで続行しようとしています。

処置: 問題を手動で解決するか、検証操作を再実行してプロンプトに対して「はい」をクリックします。

FS-10571: 重複するデータベース・インスタンス %s がノード %s で検出されましたが、削除されていません。

原因: 検証操作によって指定されたノード上に重複するデータベース・インスタンスが見つかりましたが、Oracle Fail Safe Server で問題を修復するかどうかを確認されたときに、ユーザーは「いいえ」をクリックしました。検証操作は、この問題を解決しないで続行しようとしています。

処置: 問題を手動で解決するか、検証操作を再実行してプロンプトに対して「はい」をクリックします。

FS-10572: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s は SID %s に対してリスニングしてはいけません。この問題を解決するには、SID を削除してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10573: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s は SID %s に対してリスニングする必要があります。この問題を解決するには SID を追加してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10574: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s は SID %s に対してリスニングしません。この問題を解決するには、リスナーを削除してください。

原因: 問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10575: %s の仮想サーバー情報の有効性検査中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、仮想サーバー情報の有効性検査に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10576: クラスタワイド操作の所有者ノードを判断するときにエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタワイド操作の所有者または起動ノードを判断できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10577: Net8 (または SQL*Net) のデフォルト・リスナーは SID %s に対してリスニングします。解決するにはデフォルトのリスナーを作成します。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10578: Oracle8i サーバーと旧バージョンの Oracle サーバーの両方がある場合、Oracle8i のデフォルト・リスナーを使用してください。

原因: この問題は、「スタンドアロン・データベースの検証」操作のデータベース・アクセスの検証で報告されました。

処置: Oracle8i データベース・サーバーと旧バージョンの Oracle データベース・サーバーの両方がインストールされている場合、Oracle8i のデフォルトの Net8 リスナーが稼働しているか調べます。Oracle8i のデフォルトの Net8 リスナーが稼働していない場合は、Net8 の構成を変更して Oracle8i のデフォルトの Net8 リスナーを使用するようにします。

FS-10579: デフォルト・リスナー・チェックの実行に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、デフォルト・リスナー・チェックの実行に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10580: ファイル %s が見つかりません。サービス名 %s を使用可能にするためのファイルを作成してください。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10581: グループの Net8 (または SQL*Net) リスナー %s が見つかりません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10582: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s に不適切な TCP アドレス・エントリがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に答えてください。

FS-10583: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s に文字列が存在しません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10584: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s が SID %s をリスニングしていません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10585: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s アドレス・リストは、仮想ホストの変更のため変更する必要があります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10586: Net8 (または SQL*Net) リスナー %s に不適切な IPC アドレス・エントリがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10587: このリソースの検証は実行できません。別の方法を使用してください。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージを参照してください。

FS-10588: グループから全データベース・リソースを削除するには、Cluster Administrator を使用した後、スタンドアロン DB を検証します。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: Microsoft クラスタアドミニストレータを使用して、グループからすべてのデータベース・リソースを削除します。そのグループの中にあつた各データベースに対して、「スタンドアロン・データベースの検証」コマンドを実行します。その後、再び、各データベースをグループに追加します。

FS-10589: データベース初期化ファイル %s に不適切な LOCAL_LISTENER パラメータがあります。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8 (または SQL*Net) 有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10590: ファイル %s が見つかりません。サービス名 %s を使用可能にするためのファイルを作成してください。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10591: %s のサービス名 %s が不適切な SID 名を持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10592: %s のサービス名 %s が不適切なネットワーク名を持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10593: %s のサービス名 %s が不適切なアドレス・パラメータを持っています。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10594: サービス名 %s が %s に存在しません。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10595: サービス名 %s が %s 内で持っているアドレスが多すぎます。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

FS-10596: サービス名 %s が %s 内で持っているアドレスが少なすぎます。

原因: この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。

処置: 副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。

- FS-10597: TNSNAMES.ORA ファイル内のサービス名 %s に対して OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバーを使用可能にしますか？**
原因：OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバー機能のために、サービス名エントリにデータを追加する必要があります。
処置：OCI 自動アプリケーション・フェイルオーバー機能を使用可能にする場合は、「はい」をクリックします。
- FS-10598: データベースの所有者ノードではないため、サービス名 %s は %s 内に存在してはいけません。**
原因：この問題は、「グループの検証」操作の Net8（または SQL*Net）有効性検査で報告されました。
処置：副次的なエラー・メッセージの質問に教えてください。
- FS-10599: ファイル %s を構文エラーまたはファイル破損のためパースできません。ファイルは手動で修正する必要があります。**
原因：ファイルは、Net8（または SQL*Net）構文規則では解析できません。
処置：ファイルを手動で修正します。

2.13 FS-10600 から FS-10649 まで

- FS-10600: Net8（または SQL*Net）構成ファイルが更新されました：%s**
原因：Net8（または SQL*Net）構成ファイルが更新されました。
処置：これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10601: Net8（または SQL*Net）リスナー %s が開始されました。**
原因：Net8（または SQL*Net）リスナーが起動されました。
処置：これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10602: Net8（または SQL*Net）リスナー %s が再起動しました。**
原因：Net8（または SQL*Net）リスナーが再起動されました。
処置：これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10603: Net8（または SQL*Net）リスナー %s が停止されました。**
原因：Net8（または SQL*Net）リスナーが停止されました。
処置：これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10604: Net8（または SQL*Net）リスナー %s が削除されました。**
原因：Net8（または SQL*Net）リスナーが削除されました。
処置：これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10605: Net8（または SQL*Net）リスナー %s が作成されました。

原因: Net8（または SQL*Net）リスナーが作成されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10606: データベース・パラメータ・ファイル内のリスナー構成が更新されました: %s

原因: データベース・パラメータ・ファイルのリスナー構成が更新されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10607: エントリ %s が %s に追加されました。

原因: 指定された Net8（または SQL*Net）エントリが、TNSNAMES.ORA ファイルに追加されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10608: エントリ %s が %s 内で更新されました。

原因: TNSNAMES.ORA ファイル内の指定された Net8（または SQL*Net）エントリが、更新されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10609: エントリ %s が %s から削除されました。

原因: 指定された Net8（または SQL*Net）エントリが、TNSNAMES.ORA ファイルから削除されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10610: ファイル %s への書込みに失敗しました。

原因: 指定されたファイルに対する書込み操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10611: ファイル %s を読み込むために開こうとして失敗しました。

原因: 指定されたファイルを読み取りモードで開く操作に失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10612: ファイル %s を書き込むために作成または開こうとして失敗しました。

原因: 指定されたファイルを書込みモードで作成するまたは開く操作に失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10613: ファイル %s の削除に失敗しました。

原因: 指定されたファイルの削除操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10614: %s から %s へのファイルのコピーに失敗しました。

原因: 指定されたファイルのコピー操作が失敗しました。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10615: NT サービス %s の削除に失敗しました。

原因: 指定された NT サービスは、削除できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10616: NT サービス %s を開こうとして失敗しました。

原因: 指定された NT サービスを開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10617: NT サービス コントロール マネージャ・データベース・ロックの取得に失敗しました。

原因: NT サービス コントロール マネージャのデータベース・ロックは、付与されませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10618: NT サービス %s の構成の変更失敗しました。

原因: 指定された NT サービス構成は、変更できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10619: ユーザー %s (ノード %s) を NT サービス %s に認証するときに失敗しました。

原因: 指定されたユーザー名およびパスワードの認証に失敗しました。このユーザー名およびパスワードは、NT サービスが起動時にログオンするために使用しています。

処置: 有効なユーザー名 (ドメインを含む) およびパスワードを入力してください。副次的なエラーを調べます。

FS-10620: アカウント %s (ノード %s 内) はサービスとしてログオンするユーザー権利を持ちません。

原因: 指定されたアカウントには、「サービスとしてログオン」するユーザー権利がありません。このユーザー権利は、NT サービスがサービスの起動時にユーザーをログオンするために必要です。

処置: 指定されたノードのアカウントに「サービスとしてログオン」する権利を付与します。

FS-10621: レジストリ・キー %s を開こうとして失敗しました。

原因: 指定されたレジストリ・キーを開けませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10622: レジストリ変数 %s の読み込みに失敗しました。

原因: 指定されたレジストリ変数を読み込めませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10623: NT サービス %s の停止に失敗しました。

原因: 指定された NT サービスを停止できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10624: ディレクトリ %s の削除に失敗しました。

原因: 指定されたディレクトリを削除できませんでした。

処置: 副次的メッセージを調べてください。

FS-10625: ディレクトリ %s の常駐するディスクへのアクセスに失敗しました。

原因: このエラーの原因として最も可能性が高いのは、指定されたディレクトリが常駐するディスクがオンラインではないことです。

処置: ディスクをオンライン化してから操作を再試行します。

FS-10626: NT サービス %s が作成されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された NT サービスを作成しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10627: NT サービス %s が削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された NT サービスを削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10628: アカウント %s (ノード %s) はサービスとしてログオンするユーザー権利を持ちません。このユーザー権利を付与しますか？

原因: 指定されたアカウントには、「サービスとしてログオン」するユーザー権利がありません。このユーザー権利は、NT サービスがサービスの起動時にユーザーをログオンするために必要です。

処置: Oracle Fail Safe で、指定されたノードのユーザーに「サービスとしてログオン」する権利を付与する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。ユーザーに権利を付与しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10629: Windows NT サービス %s (ノード %s) を削除しますか？

原因: Oracle Fail Safe Server は、ユーザーが指定した Windows NT サービスを削除するかどうかを知る必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定された NT サービスを削除する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。削除を行わずに続行する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10630: ホストが見つかりません。

原因: このホストは不明です。名前が正式なホスト名または別名ではない、もしくは問い合わせたデータベースにこのホストが存在しない可能性があります。

処置: 有効なホスト名が使用されていることを確認してください。

FS-10631: ホストに到達できません。

原因: ホストに到達できないため、ソケット操作に失敗しました。

処置: 有効なホスト名が使用され、そのホストが到達可能であることを確認してください。(ホスト名に ping できることを確認します。)

FS-10632: 有効なホスト名ですが、要求されたタイプのデータ・レコードが存在しません。

原因: 要求されたホスト名は有効で、データベース内で見つかりましたが、このホスト名にマップされる IP アドレスがありません。

処置: ホスト名を Oracle Fail Safe で使用する前に、そのホスト名を解決できることを確認します。ホスト名が、(HOST ファイルまたは WINS か DNS を通じて) IP アドレスにマップされていることを確認します。

FS-10633: 未知のネットワーク・エラー。

原因: 未知の Windows ソケット・エラーが発生しました。

処置: 問題をネットワーク管理者に報告します。

FS-10634: エラー %d が Windows ソケット関数 %s のコール中に発生しました。

原因: 指定された Windows ソケット関数のコール中に、予期しないエラーが発生しました。

処置: ファイルまたはマニュアルを含め Windows Socket で指定されたエラーを調べます。

FS-10640: 内部エラー: 単純パーサー: エントリが見つかりません。

原因: 内部でのみ使用されます。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10641: 内部エラー: 単純パーサー: 不正な API の使用

原因: 内部でのみ使用されます。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10645: %s: Oracle ホームを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle ホームの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10646: %s にはホーム %s が %s 内にあります。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle ホームについて報告しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10647: 次の Oracle ホームはすべてのクラスタ・ノードに存在しません: %s

原因: 少なくとも 1 つのホームが、すべてのクラスタ・ノードに存在しません。このようなホームのリソースは、Oracle Fail Safe を使用しても、可用性を高めることはできません。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールし、可用性を高めるリソースと同じホームに存在するようにします。

2.14 FS-10650 から FS-10699 まで

FS-10650: %s: Oracle Fail Safe リソース・プロバイダを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server が、レジスタ・リソース・プロバイダの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10651: %s リソースを検証中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10652: %s には、%s バージョン %s が %s にインストールされています。

原因: Oracle Fail Safe リソース・プロバイダは、インストール情報を報告しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10653: %s のバージョンが %s ホームにインストールされていますが、すべてのクラスタ・ノードで同一ではありません。

原因: クラスタ全体にある同じ名前のホームはすべて、同一バージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアを持っている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアを再インストールして、すべてのホームのバージョンが一致するようにします。

FS-10654: %s ソフトウェアは、複数のクラスタ・ノードの同じホームにインストールされていません。

原因: すべてのクラスタ・ノードに少なくとも 1 つのホームが存在し、そのホームには同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスタ・ノードの同一ホームに存在するようにします。

FS-10655: %s ソフトウェアは %s ホームにインストールされていますが、ただ1つのノードで存在しています。

原因: 各クラスタ・ノードの少なくとも1つのホームに、同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスタ・ノードの同一ホームに存在するようにします。

FS-10656: %s の最小バージョンが、Oracle ホーム %s にインストールされていません。

原因: Oracle ホームにインストールされているソフトウェアのバージョンが、Oracle Fail Safe がサポートする最小バージョンよりも低くなっています。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアの最小バージョンをインストールして、そのソフトウェアがすべてのクラスタ・ノードの同一ホームに存在するようにします。最小バージョンについては、『Oracle Fail Safe リリース・ノート』を参照してください。

FS-10657: %s は %s が %s にインストールされています。

原因: Oracle Fail Safe リソース・プロバイダは、バージョン情報を持たないリソース・プロバイダのインストール情報を報告しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10658: %s ソフトウェアは、どのクラスタ・ノードにもインストールされていません。

原因: 各クラスタ・ノードに少なくとも1つの Oracle ホームが存在し、それぞれの Oracle ホームには同じバージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールして、そのソフトウェアが各クラスタ・ノードの同一 Oracle ホームに存在するようにします。

FS-10659: クラスタ上の %s ソフトウェア構成は、Oracle Fail Safe では使用できません。

原因: 各クラスタ・ノードの少なくとも1つの Oracle ホームに、最小バージョンのリソース・プロバイダ・ソフトウェアが含まれている必要があります。

処置: リソース・プロバイダ・ソフトウェアの最小バージョンをインストールして、そのソフトウェアが各クラスタ・ノードの同一 Oracle ホームに存在するようにします。最小バージョンについては、『Oracle Fail Safe リリース・ノート』を参照してください。

FS-10660: %s: クラスタ情報を収集中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、ノード上のクラスタ情報を収集しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10661: %s リソース・プロバイダはノード %s のみにインストールされています。

原因: フェイルオーバーするようにリソースを構成するには、クラスタの少なくとも2つのノード上にリソース・プロバイダがインストールされている必要があります。

処置: クラスタの少なくとも2つのノード上にリソース・プロバイダ・ソフトウェアをインストールします。

FS-10662: %s をすべてのクラスタ・ノードの同じ IP アドレスに解決できません。

原因: ホスト名がクラスタ全体にわたって矛盾なく解決していません。

処置: ホスト・ファイルのホスト・エントリが、すべてのクラスタ・ノード上において同じであることを確認します。

FS-10663: %s は全ノード上で Home0 ではありません。

原因: 少なくとも 1 つのクラスタ・ノードで、Home0 に 8.0.x ライブラリ・ベースの製品がインストールされていますが、他にはインストールされていません。これは、ノードによるインストール順序の違いによって生じます。この環境では、グループにリソースを追加する間に Oracle Fail Safe にエラーが発生する可能性があります。これは、8.0.x ベースの製品では、インストールされる Oracle ホームによってサービス名が異なる形で導出されるためです。

処置: 「クラスタのダンプ」を実行して、問題のある製品を含むホームを特定します。全ノード上の Home0 または Home0 ではないホームにインストールされるよう、Oracle 製品を再インストールします。

FS-10664: 全ノードの Oracle ホーム %s のパスが一致しません。%s は全ノードの同じパスにインストールする必要があります。

原因: 指定された製品は、クラスタの全ノードにわたって同じ物理ディレクトリにインストールされていません。

処置: 全ノードの物理的位置が一致するよう製品を再インストールします。

FS-10665: リソース・プロバイダの DLL をチェックしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10666: Oracle から提供される MSCS リソース DLL をチェックしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10667: ソフトウェア・インストールをチェックしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10668: %s リソース・プロバイダはクラスタのすべてのノードでインストールされていません。

原因: フェイルオーバーするようリソースを構成するには、Oracle Fail Safe がインストールされているクラスタのすべてのノードでリソース・プロバイダがインストールされている必要があります。

処置: クラスタのすべてのノードでリソース・プロバイダをインストールします。

FS-10669: %s のリソース DLL はクラスタのすべてのノードでインストールされていません。

原因: フェイルオーバーするようリソースを構成するには、Oracle Fail Safe がインストールされているクラスタのすべてのノードでリソース DLL がインストールされている必要があります。

処置: クラスタのすべてのノードでリソース・プロバイダをインストールします。

FS-10672: ノード %s 上の FORMS60_PATH 値は、ノード %s 上の FORMS60_PATH 値と異なります。ノード %s で変更しますか？

原因: 指定された 2 つのノードでは、Windows NT レジストリ変数 FORMS60_PATH の値が一致しません。レジストリ変数 FORMS60_PATH は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FORMS60_PATH にあります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定されたノードの FORMS60_PATH レジストリ変数を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10679: FORMS60_PATH Windows NT レジストリ変数は、ノード %s で定義されていません。

原因: 指定されたノードに Windows NT レジストリ変数 FORMS60_PATH が存在しない、または値が空の状態です。Windows NT レジストリ変数 FORMS60_PATH は、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥FORMS60_PATH にあります。

処置: Windows NT レジストリ・エディタを使用して、FORMS60_PATH レジストリ変数に値を割り当てます。

FS-10680: Oracle Forms Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Forms Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle Forms Server の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-10681: Oracle Reports Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Forms Reports の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle Reports Server の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-10682: Oracle Reports Server エントリ %s が %s (ノード %s) に存在しません。

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置: サービス・エントリを追加して、検証操作を再実行します。

FS-10683: Oracle Reports Server エントリ %s で %s (ノード %s) に不適切なアドレス・パラメータがあります。

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server サービス・エントリが検出されました。

処置: サービス・エントリを修正して、検証操作を再実行します。

FS-10684: ポート番号 %d はすでに使われています。

原因: 指定されたポート番号は、すでに使用されています。

処置: まだ使用されていないポート番号を指定します。

FS-10685: ポート番号 %d はクラスタ・リソース %s ですすでに使われています。

原因: ポート番号は、指定されたクラスタ・リソースによってすでに使用されています。

処置: まだ使用されていないポート番号を指定します。

FS-10690: Oracle Forms Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Forms Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Oracle Forms Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10691: Oracle Reports Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Reports Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で Oracle Reports Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10692: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内に Oracle Reports Server エントリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10693: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) に存在しません。デフォルトのポート %s で作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイルにサービス・エントリを持たない Oracle Reports Server が検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内に Oracle Reports Server エントリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10694: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) で不適切なアドレス・パラメータを持ちます。変更しますか？

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server エントリが検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内の Oracle Reports Server エントリを訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10695: Oracle Reports Server エントリ %s は %s (ノード %s) で不適切なアドレス・パラメータを持ちます。デフォルトのポート %s を使いますか？

原因: 検証操作によって、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内に、不適切なアドレス・パラメータを持つ Oracle Reports Server エントリが検出されました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定された TNSNAMES.ORA ファイル内の Oracle Reports Server エントリを訂正する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10696: ディレクトリ %s はグループ %s のクラスタ・ディスクを使用しますが、グループ %s とノードが違います。グループ %s を移動しますか？

原因: そのディレクトリは、他のノード上のクラスタ・ディスクを使用しています。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定されたクラスタ・ディスクを含むグループを移動する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10697: リソース %s は Oracle Reports Server%s で使用されていますが、グループ %s 内にはありません。追加しますか？

原因: Oracle Reports Server によって使用されるクラスタ・ディスクが、グループにありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定されたリソースをグループに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10698: Oracle Reports Server 構成ファイル %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、構成ファイルがない Oracle Reports Server を検出しました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、構成ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10699: Oracle Reports Server 構成ファイル %s はノード %s で不適切なパラメータを含んでいます。修正しますか？

原因: 検証操作によって、不適切なパラメータがある Oracle Reports Server 構成ファイルを検出しました。

処置: Oracle Fail Safe Server で問題を解決する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

2.15 FS-10700 から FS-10749 まで

FS-10700: Windows NT クラスタのエラー。

原因: クラスタのエラーが発生しました。

処置: 処置は必要ありません。

FS-10701: クラスタ API を使用してグループ %s を開くときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定されたグループを開けませんでした。

処置: グループ名をチェックして、それがクラスタ内の有効なグループであることを確認します。

FS-10702: クラスタ API を使用してリソース %s を開くときに失敗しました。

原因: クラスタ API は、指定されたリソースを開けませんでした。

処置: リソース名をチェックして、それがクラスタ内の有効なリソースであることを確認します。

- FS-10703: クラスタ API を使ってリソース %s を列挙するために開くときに失敗しました。**
原因: クラスタ API は、列挙のために指定されたリソースを開けませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10704: グループ %s の状態をクラスタから取得するときに失敗しました。**
原因: クラスタ API は、指定されたグループの「グループ状態」をクラスタから取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10705: リソース %s の状態をクラスタから取得するときに失敗しました。**
原因: クラスタ API は、指定されたリソースの「リソース状態」をクラスタから取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10706: リソース %s に対する共通プロパティ・バッファの取得に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに対するプロパティ・コンポーネントから共通プロパティ・データを取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10707: リソース %s に対するプライベート・プロパティ・バッファの取得に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに対するプロパティ・コンポーネントからプライベート・プロパティ・データを取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10708: リソース %s に対するクラスタからのリソース・タイプの取得に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースのリソース・タイプを取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10711: クラスタ内のリソース %s の作成に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースをクラスタ内に作成できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10712: リソース %s を %s に依存させるのに失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソース間にリソース依存性を作成できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10713: %s が依存するリソースのリストの取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースが依存するリソースのリストを取得できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10714: クラスタ内のディスク %s に対するリソース名の取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたディスクのリソース名を取得できませんでした。

処置: 指定されたディスクがクラスタ・ディスクであることを確認します。

FS-10715: リソース %s をクラスタ内のグループ %s に移動するときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースをクラスタ内の指定されたグループに移動できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10716: クラスタ内のリソース %s に対するプライベート・プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたリソースのプライベート・プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10717: クラスタ内のリソース %s に対する共通プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたリソースの共有プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10718: クラスタ内のリソース %s に対するプライベート・プロパティの書き込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたリソースのプライベート・プロパティを書き込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10719: クラスタ内のリソース %s に対する共通プロパティの書き込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたリソースの共有プロパティを書き込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10720: グループ %s の再起動アクション・プロパティの変更に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループに対する再起動アクション・プロパティを変更できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10721: グループ %s の再起動アクション・プロパティのリセットに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループに対する再起動アクション・プロパティをリセットできませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10722: グループ %s に対する優先所有者属性の設定に失敗しました。

原因: 指定されたグループの優先所有者グループ属性を設定するコールが失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10723: クラスタ・リソース・タイプの列挙に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ・リソース・タイプのリストをクラスタ・ソフトウェアから取り出せませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10724: クラスタ内のリソース・タイプ %s に対する共通プロパティの読み込みに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ内の指定されたリソース・タイプの共有プロパティを読み込めませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10726: リソース %s は失敗状態にあります。

原因: 指定されたクラスタ・リソースが失敗の状態を報告しました。

処置: 適切なログ・ファイル、トレース・ファイル、またはその両方で追加情報をチェックします。

FS-10727: リソース %s をオンラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・リソースは、そのリソースをオンライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10728: リソース %s をオフラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・リソースは、そのリソースをオフライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10729: 依存性 %s のリソース %s からの削除に失敗しました。

原因: クラスタ・リソースの依存性を削除できません。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10730: ネットワーク名 %s はこのクラスタに無効です。

原因: 指定されたネットワーク名はこのクラスタでは使用できません。

処置: クラスタで使用可能なネットワーク名を指定します。

FS-10731: ネットワーク名 %s はグループ %s のリソースである必要があります。現在、ネットワーク名はグループ %s に存在します。

原因: リソースの追加操作中にネットワーク名が依存性として指定されました。ネットワーク名は、リソースを追加しようとしていたグループとは異なるグループに属していました。

処置: リソースを追加しようとしているグループに属するネットワーク名を指定します。

FS-10732: 必要なネットワーク名が指定されませんでした。

原因: ネットワーク名を指定する必要がある操作です。依存性ネットワークが指定されていない場合、このエラーは Oracle Fail Safe がグループにリソースを追加する間に発生します。

処置: ネットワーク名を指定します。

FS-10733: %s: リソース %s をオフラインにしています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースを停止しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10734: グループ %s をオフラインにしようとしてタイムアウトが発生しました。

原因: クラスタ・グループは、そのグループをオフライン化するために使用できる時間を超過しました。

処置: 操作を再試行します。

FS-10740: 環境変数 PATH を取得するための NT へのコールが失敗しました。

原因: 環境変数 PATH を取得するためのライブラリ・コールがなにも返しませんでした。

処置: Windows NT をチェックして、環境変数 PATH の値が取得できない理由を特定します。

FS-10741: 環境変数 PATH の値に Oracle ホーム・パスが見つかりません。

原因: 環境変数 PATH の値に Oracle ホームのパスがまったくありません。

処置: 環境変数 PATH が不正に変更されているかどうかを確認します。

2.16 FS-10750 から FS-10799 まで

FS-10750: ノード %s でローカル・クラス・ファクトリの作成に失敗しました。

原因: そのクラス・ファクトリが作成できません。

処置: Oracle Fail Safe Server が全クラスタ・ノードに対する管理者権限を伴ってインストールされていることと、全クラスタ・ノード上で同じアカウントの元で稼働するようにインストールされていることを確認します。使用されているアカウントをチェックするには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle-<Oracle_Home>」→「Oracle Fail Safe Security Setup」の順にクリックします。

FS-10751: ノード %s で、リモート・ノード %s へのクラス・ファクトリの作成に失敗しました。

原因: リモート・ノードに、クラス・ファクトリが作成できません。

処置: Oracle Fail Safe Server が全クラスタ・ノードに対する管理者権限を伴ってインストールされていることと、全クラスタ・ノード上で同じアカウントの元で稼働するようにインストールされていることを確認します。使用されているアカウントをチェックするには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle-<Oracle_Home>」→「Oracle Fail Safe Security Setup」の順にクリックします。

FS-10752: COM クラス・ファクトリはオブジェクトのインスタンスを作成できません。

原因: COM クラス・ファクトリは、そのオブジェクトのインスタンスを作成できません。

処置: メッセージに対する Windows NT イベント・ログを調べます。

FS-10753: COM クラス・ファクトリまたはオブジェクト・インスタンスのどちらかが作成できません。

原因: CoCreateInstance のコールが失敗しました。

処置: メッセージに対する Windows NT イベント・ログを調べます。

FS-10754: インタフェースを問い合わせるときに COM エラーが発生しました。

原因: オブジェクト・インタフェースを問い合わせるコールが、エラーを返しました。

処置: メッセージに対する Windows NT イベント・ログを調べます。

FS-10755: %s COM オブジェクトの作成エラー

原因: Oracle Fail Safe Server は、COM オブジェクトの作成に失敗しました。

処置: メッセージに対する Windows NT イベント・ログを調べます。

FS-10756: 操作の実行に使用可能な COM ワーカーが存在しません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、操作の実行に必要な、クラスタ・ノード上の COM ワーカーを見つけることができませんでした。

処置: メッセージに対する Windows NT イベント・ログを調べます。また、すべてのクラスタ・ノードで Oracle Fail Safe が正しくインストールされているかどうかともチェックします。

FS-10758: スレーブ・サービス名 %s が %s に追加されました。

原因: 指定された Oracle Reports Server スレーブ・サービス名が、TNSNAMES.ORA ファイルに追加されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10759: スレーブ・サービス名 %s が %s で更新されました。

原因: 指定された Oracle Reports Server スレーブ・サービス名が、TNSNAMES.ORA ファイル内で更新されました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10760: Oracle Reports Server キャッシュ・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定されたキャッシュ・ディレクトリ位置は、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でキャッシュ・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10761: Oracle Reports Server ソース・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定されたソース・ディレクトリ位置は、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でソース・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10762: Oracle Reports Server ジョブ・ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定されたジョブ・ディレクトリ位置は、存在しません。

処置: Oracle Reports Server でジョブ・ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10763: 構成ファイル %s が作成されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle Reports Server 構成ファイルを作成しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10764: ファイル共有 %s へのアクセスの有効性を検査しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたファイル共有にアクセスできるかどうかの有効性をチェックしています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10765: 構成ファイル %s が削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle Reports Server 構成ファイルを削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10766: ジョブ・スケジューリング・ファイル %s が削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle Reports Server ジョブ・スケジューリング・ファイルを削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10767: NT サービス %s 用のユーザー名およびパスワードを変更しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle Reports Server NT サービスに対するユーザー名とパスワードを変更しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10768: %s リソース %s はリソース %s に依存します。依存性を追加しますか？

原因: 指定されたリソースには必要な依存性が欠落しています。

処置: Oracle Fail Safe Server で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-10769: スレーブ・サービス名 %s は %s で見つかりませんでした。

原因: 検証操作によって、指定されたスレーブ・サービス名が TNSNAMES.ORA ファイル内にないことがわかりました。

処置: これは警告メッセージです。警告を解除するには、指定されたスレーブ・サービス名が含まれるよう TNSNAMES.ORA ファイルを更新します。

FS-10771: Oracle Reports Server リソース %s は 1 つのネットワーク名リソースのみに依存できます。

原因: Oracle Reports Server リソースは、複数のネットワーク名リソースに依存しています。

処置: 1 つのネットワーク名リソースに依存するように Oracle Reports Server リソースを変更し、グループの検証操作を再実行します。

FS-10772: ディレクトリ %s はクラスタ・ディスクに置く必要があります。

原因: 指定されたディレクトリは、クラスタ・ディスクに置く必要があります。

処置: 指定されたディレクトリがクラスタ・ディスクを使用するように変更します。

FS-10773: ディレクトリ %s はグループ %s と同じノードにあるクラスタ・ディスクを使用する必要があります。

原因: 指定されたディレクトリが使用しているクラスタ・ディスクは、グループとして現在同じノード上にありません。

処置: そのクラスタ・ディスクをグループを含むノードに移動するか、またはそのグループをクラスタ・ディスクを含むノードに移動します。

FS-10774: ディレクトリ %s は、他のクラスタ・リソースが依存しているクラスタ・ディスクを使っています。

原因: ディレクトリに対し、他のクラスタ・リソースが依存しているクラスタ・ディスクが指定されています。

処置: 指定されたディレクトリが、他のクラスタ・リソースによって依存されていないクラスタ・ディスクを使用するように変更します。

FS-10775: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の初期化に失敗しました。

原因: 指定されたリソースの初期化で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10776: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の所有者ノードの判断に失敗しました。

原因: 指定されたリソースの所有者を判断しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10777: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のリソース・プロパティの有効性検査に失敗しました。

原因: ユーザー指定のリソース・プロパティの有効性検査で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10778: %s リソース・プロバイダで、クラスタ・リソース %s の構成に失敗しました。

原因: クラスタ・リソースの構成で、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10779: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するプロパティ・データの取得に失敗しました。

原因: クラスタからリソース・プロパティ・データを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

- FS-10780: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するプロパティ・データの設定に失敗しました。**
原因: クラスタにリソース・プロパティ・データを設定しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10781: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するスタンドアロン・リソースの検証に失敗しました。**
原因: 指定されたスタンドアロン・リソースの検証で、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10782: %s リソース・プロバイダで、リソース %s をオンラインにしようとして失敗しました。**
原因: 指定されたリソースのオンライン化で、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10783: %s リソース・プロバイダで、リソース %s をオフラインにしようとして失敗しました。**
原因: 指定されたリソースのオフライン化で、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10784: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対する仮想サーバーの構成に失敗しました。**
原因: 指定されたリソースに仮想サーバーを構成しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10785: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するクラスタ構成の削除に失敗しました。**
原因: 指定されたリソースのクラスタ構成を削除しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10786: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対する仮想サーバーの構成の削除に失敗しました。**
原因: 指定されたリソースの仮想サーバー構成を削除しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10787: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するレプリケーション・データの取得に失敗しました。

原因: 指定されたリソースのレプリケーション・データを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10788: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するレプリケーション・データの設定に失敗しました。

原因: 指定されたリソースのレプリケーション・データを設定しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10789: %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソースのリストの取得に失敗しました。

原因: 指定されたリソース・プロバイダからスタンドアロン・リソースのリストを取得しようとして、エラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10790: %s リソース・プロバイダで、リソース %s に対するこの操作の実行は許されていません。

原因: 要求された操作は、指定されたリソース上では実行できません。

処置: 指定されたリソース上では、その操作を実行しないでください。

FS-10791: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のクラスタ情報収集中に失敗しました。

原因: 指定されたリソースのクラスタ情報の収集中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10792: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のクラスタ情報分析中に失敗しました。

原因: 指定されたリソースのクラスタ情報の分析中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10793: %s リソース・プロバイダで、リソース %s のエピログ実行中に失敗しました。

原因: 指定されたリソースのクラスタに対するエピログの実行中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

- FS-10794:** %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソース %s の作成に失敗しました。
原因: スタンドアロン・リソースを作成しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10795:** %s リソース・プロバイダで、リソース %s の有効性検査に失敗しました。
原因: リソースを検査しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10796:** %s リソース・プロバイダで、リソース %s のロールバック処理中に失敗しました。
原因: 操作をロールバックしようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10797:** %s リソース・プロバイダで、スタンドアロン・リソース %s の削除に失敗しました。
原因: スタンドアロン・リソースを削除しようとして、エラーが発生しました。
処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

2.17 FS-10800 から FS-10849 まで

- FS-10801:** 共通プロパティ・バッファの設定に失敗しました。
原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、共通プロパティ・バッファを設定できませんでした。
処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。
- FS-10802:** プライベート・プロパティ・バッファの設定に失敗しました。
原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、プライベート・プロパティ・バッファを設定できませんでした。
処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。
- FS-10803:** アプリケーション・プロパティ・バッファの設定に失敗しました。
原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、アプリケーション・プロパティ・バッファを設定できませんでした。
処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。
- FS-10804:** 共通プロパティを開くときに失敗しました。
原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、共通プロパティを開けませんでした。
処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10805: プライベート・プロパティを開くときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、プライベート・プロパティを開けませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10806: アプリケーション・プロパティを開くときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、アプリケーション・プロパティを開けませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10807: 共通プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、共通プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10808: プライベート・プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、プライベート・プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10809: アプリケーション・プロパティを閉じるときに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、アプリケーション・プロパティを閉じられませんでした。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10810: 要求されたプロパティを見つけられません。

原因: Oracle Fail Safe Property コンポーネントは、要求されたプロパティを見つけられません。プロパティ名は、要求されたプロパティの正しい名前である必要があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10811: 無効なプロパティ・タイプが指定されました。

原因: 指定されたプロパティ・タイプは無効です。有効なプロパティ・タイプは、(FsCoProperty.h に定義されている) eCommon、ePrivate および eApplication です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10815: クラスタワイド操作の重複所有者ノード

原因: リソース・プロバイダにより、スタンドアロン・リソースの所有者が1つ以上のノードであると報告されたため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10816: クラスワイド操作には所有者ノードが必要ですが、指定されていません。

原因: リソース・プロバイダにより所有者ノードが必要であると指定されたにもかかわらず、所有者ノードが見つからなかったため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10817: 無効な所有者状態が指定されました。

原因: 少なくとも1つのリソース・プロバイダが、無効な所有者状態を Oracle Fail Safe Server に返したため、エラーが発生しました。

処置: 各リソース・プロバイダから返される所有者状態を調べます。

FS-10818: %s リソース・プロバイダで、リソース %s の構成処理の準備中に失敗しました。

原因: 構成処理のためのリソースの準備中にエラーが発生しました。

処置: リソース・プロバイダが生成した副次的エラーを調べます。

FS-10819: ノード %s はグループ %s の可能所有者ではなく、構成もできません。残っているノードで続行しますか？

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: 指定されたノードを構成せずに操作を続行する場合は、「はい」をクリックします。操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10820: ノード %s はグループ %s の可能所有者ではなく、指定された操作に対する構成もできません。

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: グループの可能所有者を変更し、「グループの検証」を実行してすべての可能所有者グループが構成されていることを確認します。

FS-10821: リソース %s はノード %s 上で常駐し、グループ %s の可能所有者ではないため構成もできません。

原因: 操作に対してグループの可能所有者ではないノードが指定されました。

処置: グループの可能所有者を変更し、操作を再試行します。

FS-10822: ノード %s はリソース・タイプ %s の可能所有者ではありません。

原因: 指定されたノードは指定されたリソース・タイプの可能所有者ではありません。指定されたリソース・タイプのリソース DLL は、MSCS にはロードできません。

処置: リソース DLL が存在し、パスにあることを確認します。リソース DLL のパス位置を更新するためにマシンをリポートする必要がある場合があります。

FS-10825: XML ドキュメントが無効です。

原因: XML ドキュメントが、正しく形成されていません。無効な形式になっています。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10826: %s 用の XML ドキュメント・スキーマは有効ではありません。

原因: XML ドキュメント・スキーマが無効です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10827: XML コマンドが不明です。

原因: XML コマンドの値が不明です。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10828: XML ノードが見つかりません。

原因: コールする側は、存在しないノードを検索しています。このメッセージは、XML ドキュメントを処理しているコードに、オブジェクトが存在しないという情報を提供します。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10829: XML ドキュメントにオブジェクト名が存在しません。

原因: コールする側から渡される XML ドキュメントには、オブジェクト名が必要です。XML ドキュメントが適切な Oracle Fail Safe スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10830: XML ドキュメントにオブジェクト型が存在しません。

原因: コールする側から渡される XML ドキュメントには、オブジェクト型が必要です。XML ドキュメントが適切な Oracle Fail Safe スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10831: XML ドキュメントで、指定されたコマンドに対して間違ったオブジェクト型があります。

原因: XML ドキュメントに、XML コマンドがドキュメント内でサポートしていないオブジェクト型があります。XML ドキュメントが適切な Oracle Fail Safe スキーマを使用していない可能性があります。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10832: %s は有効な XML コマンド・タグではありません。

原因: XML ドキュメントで、Oracle Fail Safe プロトコルではサポートされていない無効なコマンド・タグが使用されています。

処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.18 FS-10850 から FS-10899 まで

- FS-10851: リソース %s に対するリソース・データの取得に失敗しました。**
原因: 指定されたリソースに対するリソース・データが取得できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10852: リソース %s に対するリソース・データの設定に失敗しました。**
原因: 指定されたリソースに対するリソース・データが設定できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10853: レプリケーション用のレジストリ・キー %s の追加に失敗しました。**
原因: クラスタを複製するための、指定されたレジストリ・キーを追加できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10854: レプリケーション用のレジストリ・キー %s の削除に失敗しました。**
原因: クラスタを複製するための、指定されたレジストリ・キーを削除できませんでした。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10860: アカウント %s は、サービスとしてログオンする権利が付与されています。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、「サービスとしてログオン」するユーザー権利を権限付与しました。
処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。
- FS-10861: DLL: %s のロードが次のエラーで失敗しました: %u**
原因: 指定された動的リンク・ライブラリ (DLL) をロードできませんでした。
処置: 指定された DLL がそのシステムにインストールされており、DLL を検索するパスも正しく設定されていることを確認します。
- FS-10862: セキュリティ初期化ルーチンのロードが次のエラーで失敗しました: %u**
原因: セキュリティ初期化ルーチンのアドレスがロードできませんでした。
処置: Windows NT セキュリティ・パッケージが、そのシステムにインストールされていることを確認します。
- FS-10863: Windows NT セキュリティ・パッケージの初期化に失敗しました。**
原因: Windows NT セキュリティ・パッケージの初期化に失敗しました。
処置: Windows NT セキュリティ・パッケージが、そのシステムにインストールされていることを確認します。

FS-10864: セキュリティ・パッケージ情報の問合せが次のエラーで失敗しました: %u

原因: セキュリティ・パッケージ情報の問合せに失敗しました。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10865: セキュリティ資格証明の取得が次のエラーで失敗しました: %u

原因: 指定されたユーザーのセキュリティ資格証明が取得できませんでした。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10866: ログインの拒否: ユーザー名またはドメインが不明、もしくはパスワードが正しくありません。

原因: 指定されたアカウント情報では、そのユーザーはログオンできません。

処置: ユーザー名、パスワードおよびパスワードなどのアカウント情報が正しいことを確認します。

FS-10867: セキュリティ・コンテキストの初期化が次のエラーで失敗しました: %u

原因: セキュリティ・コンテキストを初期化することができませんでした。

処置: 詳細は、メッセージに示されたエラー・コードを参照してください。

FS-10868: ユーザー権利のチェックに失敗しました。

原因: 指定されたユーザーの権利をチェックできませんでした。

処置: Windows NT が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10869: ユーザー権利の追加に失敗しました。

原因: 指定されたアカウントにユーザー権利を追加できませんでした。

処置: Windows NT が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10870: グループ %s からのユーザー・メンバー情報の取得が次のエラーで失敗しました: %u

原因: Fail Safe Server は、ローカル・グループからユーザー・メンバー情報を取得できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

FS-10871: ユーザー %s のローカル・グループ %s への追加が次のエラーで失敗しました: %u

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したローカル・グループにユーザーを追加できませんでした。

処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。

- FS-10872: ユーザー %s のローカル・グループ %s からの削除が次のエラーで失敗しました:**
%u
原因: Oracle Fail Safe Server は、ローカル・グループからユーザー・メンバー情報を取得できませんでした。
処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10873: ローカル・グループ %s の作成が次のエラーで失敗しました: %u**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したローカル・グループを作成できませんでした。
処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10874: ローカル・グループ %s の削除が次のエラーで失敗しました: %u**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定したローカル・グループを削除できませんでした。
処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10875: ローカル・グループ %s が存在しません。**
原因: 指定したローカル・グループがシステムに存在しません。
処置: 指定したローカル・グループがシステムに存在することを確認してください。
- FS-10876: ユーザー %s のローカル・グループ %s への追加に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、ローカル・グループにユーザーを追加できませんでした。
処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10877: ユーザー %s のローカル・グループ %s からの削除に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、ローカル・グループからユーザーを削除できませんでした。
処置: Windows が生成した副次的エラーを調べます。
- FS-10878: データベース・インスタンス %s の OS 認証の構成に失敗しました。**
原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたデータベース・インスタンスの OS 認証の構成に失敗しました。
処置: 副次的なエラーを調べます。
- FS-10880: FscOASWebListener オブジェクトのメソッド %s をコールするときにエラーが発生しました。**
原因: オブジェクトが正しく初期化されていないか、メソッドへの入力が無効です。他の FscOASWebListener メソッドをコールする前に、適切な入力をもとに FscOASWebListener::Init をコールする必要があります。
処置: 問題をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10881: Oracle ホーム %s に対するレジストリ・キーから OAS 情報を取得するときにエラーが発生しました。

原因: Oracle ホームに対するレジストリ・キーの下で、Oracle Application Server のサブキー（または名前および値）が見つかりませんでした。

処置: 「regedit」を使用して、OAS40 のサブキーの
¥¥HKLM¥Software¥Oracle¥[HOME*] を調べます。

FS-10882: OAS Web リスナー・ファイル %s を開く、閉じる、読み込むまたは書き込むときのエラー。

原因: OAS Web リスナー・ファイルが存在しない、他の処理で使用されている（OAS Manager を調べます）、または破損しています。

処置: テキスト・エディタを使用して、OAS Web リスナー・ファイルを調べます。

FS-10883: OAS Web リスナー・ディレクトリ %s を作成または削除するときのエラー。

原因: OAS Web リスナー・ディレクトリが、すでに存在している（作成しようとしたとき）、存在しない（削除しようとしたとき）、破損している、またはその親ディレクトリが別の処理で使用されています。

処置: Microsoft Windows エクスプローラを使用して、OAS Web リスナー・ディレクトリを調べます。

FS-10884: OAS Web リスナー構成ファイル %s を作成する、削除する、開くまたは閉じる時のエラー。

原因: OAS Web リスナー構成ファイルが、すでに存在している（作成しようとしたとき）、存在しない（削除しようとしたとき）、使用されている（OAS Web リスナー・サービスを調べる）、または破損しています。

処置: Microsoft Windows エクスプローラを使用して、OAS Web リスナー構成ファイルを調べます。

FS-10885: OAS Web リスナー構成ファイル %s を読み込むまたは書き込むときのエラー。

原因: OAS Web リスナー構成ファイルが正しく形成されていません。

処置: テキスト・エディタを使用して、OAS Web リスナー構成ファイルを調べます。
(デフォルト Web リスナーが使用している構成ファイルに類似したものになります。)

FS-10886: OAS Web リスナー・エラー・ファイル %s を作成または削除するときのエラー。

原因: OAS Web リスナー・エラー・ファイルが、すでに存在している（作成しようとしたとき）、存在しない（削除しようとしたとき）、使用されている（OAS Web リスナー・サービスを調べる）、または破損しています。

処置: Microsoft Windows エクスプローラを使用して、OAS Web リスナー・エラー・ファイルを調べます。

FS-10887: OAS Web リスナー・サービス %s を作成、削除、起動または停止するときのエラー。

原因: OAS Web リスナー・サービスが、すでに存在している（作成しようとしたとき）、存在しない（削除しようとしたとき）、または OAS Web リスナーが適切に構成されていません。

処置: すべての入力項目（OAS Web リスナー名、Oracle ホーム、ルート・ディレクトリ、イニシャル・ファイル、仮想 IP アドレス、ホスト名、ポート、その他）が存在し、正しい値であることを確認します。

FS-10888: スタンドアロン OAS Web リスナーを検出中のエラー。

原因: Oracle Fail Safe Server がスタンドアロンの OAS Web リスナーを検出しようとしているときに、エラーが発生しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10889: Oracle Fail Safe Server は、特別な Oracle Application Server Web リスナー %s を削除しません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle Application Server によって要求されているため、その特別な Oracle Application Server Web リスナーを削除しません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-10890: Oracle Web リスナー・リソース %s はリソース %s に依存します。依存性を追加しますか？

原因: OAS Web リスナー構成リソースは、指定されたリソースに依存する必要があります。

処置: Oracle Fail Safe Server で、Oracle Web リスナー・リソースの指定されたリソースへの依存性を追加する場合は、「はい」をクリックします。

FS-10891: OAS Web リスナーの証明ファイル %s を作成、削除、開くまたは閉じるときのエラー。

原因: OAS Web リスナー説明ファイルが、すでに存在している（作成しようとしたとき）、存在しない（削除しようとしたとき）、使用されている（OAS Web リスナー・サービスを調べる）、または破損しています。

処置: OAS Manager を使用して、Oracle Web リスナーの証明ファイルを調べます。

FS-10892: OAS Web リスナーの開始、停止または状態を取得するための owsctl コマンドライン・ユーティリティの実行エラー。

原因: Oracle Fail Safe Server が Oracle Application Server コマンドライン・ユーティリティ owsctl を実行して、Web リスナーの起動、停止または状態を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: OAS Manager を使用して、Web リスナーがすでに起動または停止されていないことを確認します。Oracle Home Selector を使用して、Oracle Application Server がインストールされている Oracle ホームが主 Oracle ホームであることを確認します。(主 Oracle ホームとは、PATH 環境変数の中で最初に表示される Oracle ホームです。)

FS-10893: OAS Web リスナー %s (ノード %s) は、デフォルトのセキュリティ証明書のみを持ちます。

原因: Oracle Fail Safe Server は、スタンドアロン OAS Web リスナーをフェイルセーフにする場合、リスナーが存在しないノードにリスナーを作成します。リスナーを作成する場合、Oracle Fail Safe はデフォルトのセキュリティ証明書のみを与えます。

処置: スタンドアロン・リスナーのセキュリティ証明書を変更する場合は、リスナーが存在しないノード上で OAS Manager を使用して、新規に作成されたリスナーのセキュリティ証明書を変更します。

FS-10894: Oracle Application Server は、ノード %s にインストールされていないかまたは正しく構成されていません。

原因: Oracle Fail Safe Server が Oracle Application Server コマンドライン・ユーティリティ owsctl を実行して、Oracle Application Server のインストールを検証しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: Oracle Home Selector を使用して、Oracle Application Server がインストールされている Oracle ホームが主 Oracle ホームであることを確認します。(主 Oracle ホームとは、PATH 環境変数の中で最初に表示される Oracle ホームです。)

FS-10895: OAS Web リスナーのルート・ディレクトリ %s は存在しません。

原因: OAS Web リスナーは、そのルート・ディレクトリが存在しない場合、起動しません。

処置: ルート・ディレクトリを作成します。

FS-10896: OAS Web リスナーのイニシャル・ファイル %s は存在しません。

原因: OAS Web リスナーは、そのイニシャル・ファイルが存在しない場合、起動しません。

処置: イニシャル・ファイルを作成します。

FS-10897: 仮想ディレクトリが使用している OAS Web リスナーの物理ディレクトリの 1 つが存在しません。

原因: Oracle Web リスナーは、(仮想ディレクトリのポインタが指し示す) 物理ディレクトリの 1 つが存在しない場合、起動しません。

処置: 欠落している物理ディレクトリを作成します。

FS-10898: デフォルトの OAS Web リスナーが存在しません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、デフォルトの OAS Web リスナーを見つけられません。デフォルトの OAS Web リスナーがないと、Oracle Fail Safe は OAS Web リスナーをサポートできません。

処置: OAS Manager を使用して新規の OAS Web リスナーを作成し、リスナーの構成ファイルをコピーしてそのコピーに .inst 接尾辞を追加することで、新規作成したリスナーをデフォルトの OAS Web リスナーにします。

2.19 FS-10900 から FS-10949 まで

FS-10900: %s 用の Oracle Fail Safe リソース・プロバイダはノード %s に登録されていません。

原因: Oracle Fail Safe リソース・タイプには、Windows NT レジストリのエントリがありません。

処置: リソース・タイプを Windows NT レジストリに登録します。

FS-10901: Oracle Fail Safe リソース・タイプ %s が Windows NT レジストリに複数回登録されています。

原因: Oracle Fail Safe リソース・タイプのレジストリ・エントリが、複数個あります。

処置: 余分な登録を削除します。

FS-10902: オンラインの間はリソース %s に依存性を追加できません。依存性の追加のためにリソース %s をオフラインにしますか？

原因: Oracle Fail Safe では、オンラインなリソースには依存性を追加できません。

処置: リソースをオフラインにし、依存性を追加した後で再びオンライン化する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。依存性を追加しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-10905: %s: スタンドアロン・リソース %s の作成を開始します。

原因: 新規スタンドアロン・リソースの作成を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10906: %s: スタンドアロン・リソースを作成中です。

原因: 新規スタンドアロン・リソースを作成しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10907: %s: スタンドアロン・リソースの有効性を検査しています。

原因: 新規スタンドアロン・リソースを検査しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10908: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に作成されました。

原因: 新規スタンドアロン・リソースの作成が完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10910: %s: スタンドアロン・リソース %s の削除を開始します。

原因: スタンドアロン・リソースの削除を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10911: %s: スタンドアロン・リソースを削除中です。

原因: スタンドアロン・リソースを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10912: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に削除されました。

原因: スタンドアロン・リソースの削除が完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10915: %s: スタンドアロン・リソース %s の検証を開始します。

原因: スタンドアロン・リソースの検証を開始しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10916: %s: スタンドアロン・リソースの検証

原因: スタンドアロン・リソースを検証しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10917: %s: スタンドアロン・リソース %s は正常に検証されました。

原因: スタンドアロン・リソースの検証が完了しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

2.20 FS-10950 から FS-10999 まで

FS-10950: NT サービス %s はすでにクラスタ・リソースとなっています。

原因: 指定された NT サービスは、すでにクラスタ・リソースになっています。

処置: 汎用サービス・タイプのクラスタ・リソースをチェックして、指定された NT サービスのリソースを検索します。

FS-10951: NT サービス用のイメージ名 %s をユーザーが指定しましたが、このノードに存在する NT サービスはイメージ名 %s を持っています。

原因: 指定したサービスはすでに存在していますが、指定したイメージ名とは異なるイメージ名を持っています。

処置: サービス名を一意のものに変更するか、指定するイメージ名が既存サービスのイメージ名と一致することを確認します。Windows の「コントロールパネル」で「サービス」を選択して、既存サービスに関連付けられているイメージ名をチェックできます。

FS-10952: Oracle NT サービス %s はすでに汎用サービスとなっています。

原因: 指定された Oracle NT サービスは、すでに汎用サービスになっています。その Oracle NT サービスは、Microsoft クラスタ アドミニストレータによって汎用サービスになりました。

処置: Microsoft クラスタ アドミニストレータを使用して、次のように、指定された Oracle NT サービス名に対応するリソースを検索して削除します。

1. クラスタ アドミニストレータのツリー・ビューで「リソース」をクリックします。
2. 汎用サービス・タイプのリソースをマウスの右ボタンでクリックし、次に「プロパティ」をクリックします。
3. 「パラメータ」タブをクリックしてサービス名を参照します。
4. 指定された Oracle NT サービス名に対応する汎用サービスを見つけるまで、手順 1 から 3 を繰り返します。
5. 手順 4 で識別した汎用サービスを削除します。

FS-10990: エラー 0x%X がシステム・エラーとしてレポートされていますが、エラー・メッセージが見つかりません。

原因: ソフトウェア・モジュールによって、あるエラーがシステム・エラーとして報告されていますが、それが見つかりません。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10991: エラー 0x%X は Oracle Fail Safe 機能ではなく機能 %d を使用してレポートされています。

原因: ソフトウェア・モジュールは、Oracle Fail Safe 機能を指定するはずでしたが、指定していません。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10992: エラー 0x%X は不明な機能 %d を使用してレポートされています。

原因: ソフトウェア・モジュールは、不明な機能を指定しました。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10996: Oracle Fail Safe Worker は未処理の例外を検出しました。

原因: Oracle Fail Safe の未処理なワーカー・プロセスで例外が発生しました。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-10997: FSCMD コマンドは、対話モードでは実行できません。このため、ユーザーは入力できません。

原因: FSCMD コマンドは対話モードでは実行できません。したがって、問合せはクライアントに返されません。そのコマンドは、ユーザー入力がないと完了できません。

処置: Oracle Fail Safe Manager インタフェースからその操作を実行して、コマンドが必要とする入力を要求できるようにします。

FS-10998:

原因: 書式化を目的とする空白行。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-10999: Oracle Fail Safe Server で内部プログラミング・エラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe ソフトウェアに内部コーディング・エラーがあります。

処置: 問題（エラーが発生した状況を含む）をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

2.21 FS-11000 から FS-11049 まで

FS-11001: 無効な入力

原因: 提供された入力は無効です。

処置: 有効な入力を行います。

FS-11002: WebDB リスナーの構成ディレクトリは削除できませんでした。

原因: WebDB リスナーの構成ディレクトリを削除できませんでした。ただし、クラスワイド操作は続行されます。

処置: 構成ディレクトリが必要でなくなった場合は、ディレクトリを手動で削除します。

FS-11003: WebDB リスナー・リソースの構成が失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、WebDB リスナーを構成できませんでした。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11004: WebDB 構成ファイル %s が存在しません。作成しますか？

原因: WebDB リスナーが必要とする構成ファイルが構成ディレクトリにありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、ディレクトリに構成ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11005: WebDB HTML ファイル %s が存在しません。作成しますか？

原因: WebDB リスナーを管理する HTML ファイルが構成ディレクトリから削除されています。

処置: Oracle Fail Safe Server で、構成ディレクトリに HTML ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11006: WebDB リスナー構成ディレクトリが存在しません。作成しますか？

原因: WebDB リスナーの構成ディレクトリが削除されています。適切なディレクトリに構成ファイルがないと、WebDB リスナーはオンライン化できません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、WebDB リスナーに必要な構成ファイルおよび構成ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を未解決のまま残す場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合、WebDB リスナーは機能しません。

FS-11007: WebDB リスナーがノード %s に正しくインストールされていません。

原因: Oracle WebDB リスナー・コマンド `wdblsnr -version` の実行時にエラーが発生しました。

処置: 問題 (NT 構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-11008: 元の BAT ファイルのコピーに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルをコピーできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11009: 元の APP ファイルのコピーに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルをコピーできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11010: 元の BAT ファイルの削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルを削除できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11011: 元の APP ファイルの削除に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルを削除できませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11012: 元の BAT ファイルのバックアップに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルをバックアップできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11013: 元の APP ファイルのバックアップに失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe は、元のファイルをバックアップできませんでした。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11014: WebDB BAT ファイルの内容が予期していたものと異なります。修正しますか？

原因: WebDB .BAT ファイルのポート番号またはホスト名が、初回作成時のものから変更されました。

処置: 元の値に戻す場合は「はい」をクリックし、このまま残す場合は「いいえ」をクリックします。

FS-11015: 無効な構成パスが WebDB リソース・プロバイダに提供されました。

原因: これは内部エラーです。

処置: 問題 (NT 構成に関する情報を含む) をオラクル社カスタマ・サポート・センターに報告します。

FS-11024: Load Balancer データ・ポート %d (ノード %s) はデータ・ポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s で変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたってデータ・ポート・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: データ・ポート値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11025: Load Balancer 要求ポート %d (ノード %s) は要求ポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s で変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたって要求ポート・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: 要求ポート値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11026: Forms Load Balancer のクライアント数 %d (ノード %s) はクライアント数 %d (ノード %s) と一致しません。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Load Balancer Server が、クラスタのノード全体にわたってクライアント数パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11027: Forms Load Balancer Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。

原因: 検証操作によって、指定されたノードに Oracle Forms Load Balancer が存在せず、ユーザーが NT サービスを作成しないことを選択したことがわかりました。

処置: Oracle Forms Load Balancer Server NT サービスを作成し、検証操作を再実行します。

FS-11028: Forms Load Balancer Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Forms Load Balancer Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Forms Load Balancer Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11029: Forms Load Balancer NT サービス %s はノード %s に存在しません。デフォルト・ランタイム値で作成しますか？

原因： 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Forms Load Balancer Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置： デフォルト・ランタイム値で Oracle Forms Load Balancer Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合、検証操作は続行されません。

FS-11030: Forms Load Balancer Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因： クラスタの複数のノード上に、同じ名前の Oracle Forms Load Balancer Server が存在しています。

処置： スタンドアロン Oracle Forms Load Balancer Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle Forms Load Balancer Server を削除し、Oracle Forms Load Balancer Server を再びグループに追加します。

FS-11031: Forms Load Balancer Server の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因： Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Forms Load Balancer Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置： Oracle Forms Load Balancer Server の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-11032: Forms Load Balancer Server の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因： Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Forms Load Balancer Server の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置： Oracle Forms Load Balancer Server の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-11033: NT サービス %s は Forms Load Balancer Server のサービスではありません。

原因： 指定された NT サービスは、Oracle Forms Load Balancer Server サービスではありません。

処置： 有効な Oracle Forms Load Balancer Server サービスを指定します。

FS-11034: データ・ポート %d または要求ポート %d は他のプログラムによって使用されている可能性があります。

原因： データ・ポートまたは要求ポート（あるいはその両方）が他のプログラムによって使用されているため、Oracle Forms Load Balancer Server をオンライン化できなかった可能性があります。

処置： 指定されたポートが他のプログラムによって使用されていないことを確認します。

FS-11035: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-11036: Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンが 1 つ以上のクラスター・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Applications Concurrent Manager の最小バージョンが各ノードにインストールされている必要があります。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager の、指定された最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11037: アプリケーション構成 ID%s の環境が見つかりません。

原因: Oracle Fail Safe は、指定されたアプリケーション構成 ID を取得できませんでした。

処置: 有効なアプリケーション構成 ID を指定します。

FS-11038: アプリケーション構成 ID%s は NT サービス %s のアプリケーション構成 ID と一致しません。

原因: 「リソースをグループに追加」操作中に指定されたアプリケーション構成 ID と、Oracle Applications Concurrent Manager NT サービスに関連付けられたアプリケーション構成 ID が一致しません。

処置: 正しいアプリケーション構成 ID を指定します。

FS-11039: NT サービス %s は Oracle Applications Concurrent Manager サービスではありません。

原因: 指定された NT サービスは Oracle Applications Concurrent Manager サービスではありません。

処置: 有効な Oracle Applications Concurrent Manager サービスを指定します。

FS-11040: Oracle Concurrent Manager のログおよび出力ファイル用ディレクトリ %s が存在しません。作成しますか？

原因: 指定されたディレクトリが存在しません。

処置: ディレクトリを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。作成しない場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11041: データベース・サービス %s に接続しています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11042: アプリケーション構成 ID は NT サービス %s (ノード %s) に見つけることができませんでした。

原因: 指定された Oracle Applications Concurrent Manager NT サービスのアプリケーション構成 ID 引数が見つかりません。Oracle Applications Concurrent Manager は正しく構成されていません。

処置: Oracle Applications Concurrent Manager NT サービスが正しくインストールされていることを確認します。

FS-11043: Oracle Concurrent Manager NT サービス %s はノード %s に存在しません。ID %s、ユーザー名 %s を使用して作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Applications Concurrent Manager NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: 指定されたアプリケーション構成 ID およびユーザー名で Oracle Applications Concurrent Manager NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11044: Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列はノード %s で見つかりません。接続文字列 %s を使用しますか？

原因: 検証操作によって、ジョブ要求のバックグラウンド処理のために Oracle Applications Concurrent Manager がデータベースにアクセスできないことがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager では、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を使用してデータベースに接続しますが、そのレジストリ変数が読み取れませんでした。

処置: 指定されたデータベース接続文字列で CCMCONNSTRING レジストリ変数を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合、検証操作は続行されません。

FS-11045: Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列 (CCMCONNSTRING) はノード %s で見つかりません。

原因: 検証操作によって、ジョブ要求のバックグラウンド処理のために Oracle Applications Concurrent Manager がデータベースにアクセスできないことがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager では、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を使用してデータベースに接続しますが、そのレジストリ変数が読み取れませんでした。

処置: データベース接続文字列値で、レジストリ変数 CCMCONNSTRING を作成します。レジストリ変数 CCMCONNSTRING は、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Oracle\Applications\11.0.0\<appl_config>\CCMCONNSTRING` にあります。

FS-11046: ノード %s の Oracle Concurrent Manager データベース接続文字列はノード %s のデータベース接続文字列と一致しません。

原因: 検証操作によって、Oracle Applications Concurrent Manager が、クラスタのノード全体にわたってデータベース接続文字列パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 CCMCONNSTRING は、データベース接続文字列として使用されます。

処置: これは情報メッセージです。Oracle Applications Concurrent Manager が全クラスタ・ノードで同じデータベースを使用していれば、処理は必要ありません。

FS-11047: リソース %s は Oracle Concurrent Manager %s に使用されますがグループ %s に存在しません。グループに追加しますか？

原因: Oracle Applications Concurrent Manager によって使用されるクラスタ・ディスクが、グループにありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、指定されたリソースをグループに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11048: Oracle Concurrent Manager の出力ディレクトリ %s はノード %s の値と一致しません。ノード %s に変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Applications Concurrent Manager が、クラスタのノード全体にわたってログおよび出力ディレクトリ・パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。Oracle Applications Concurrent Manager ログおよび出力ディレクトリの値は、NT レジストリ内の次の場所にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\APPLICATIONS\11.5.0\
<appl-id>\APPLCSF
```

処置: ログおよび出力ディレクトリを変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11049: Oracle Reports Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle Reports Server が存在しています。

処置: スタンドアロン Oracle Reports Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle Reports Server を削除し、Oracle Reports Server を再びグループに追加します。

2.22 FS-11050 から FS-11099 まで

FS-11050: Oracle Reports Server の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Reports Server の最小バージョンが各ノードにインストールされている必要があります。

処置: Oracle Reports Server の、指定された最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11051: NT サービス %s は Oracle Reports Server サービスではありません。

原因: 指定された NT サービスは Oracle Reports Server サービスではありません。

処置: 有効な Oracle Reports Server サービスを指定します。

FS-11052: Oracle Forms Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle Forms Server が存在しています。スタンドアロン Oracle Forms Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。

処置: 重複スタンドアロン Oracle Forms Server を削除し、Oracle Forms Server を再びグループに追加します。

FS-11053: Oracle Forms Server の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle Forms Server の最小バージョンが各ノードにインストールされている必要があります。

処置: Oracle Forms Server の、指定された最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11054: NT サービス %s は Oracle Forms Server サービスではありません。

原因: 指定された NT サービスは Oracle Forms Server サービスではありません。

処置: 有効な Oracle Forms Server サービスを指定します。

FS-11055: ノード %s の Forms Server POOL パラメータがノード %s の POOL パラメータと一致しません。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって POOL パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 POOL がプール・パラメータとして使用されます。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11056: Forms Server モード %s (ノード %s) はモード %s (ノード %s) と一致しません。ノード %s に変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって MODE パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 MODE がプール・パラメータとして使用されます。

処置: MODE 値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11057: Forms Server ポート %d (ノード %s) はポート %d (ノード %s) と一致しません。ノード %s に変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、クラスタのノード全体にわたって PORT パラメータに異なる値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 PORT がプール・パラメータとして使用されます。

処置: PORT 値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11058: Forms Server HOST パラメータ %s (ノード %s) は依存するネットワーク名 %s と一致しません。変更しますか？

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、依存するネットワーク名値とは異なる HOST パラメータ値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置: HOST 値を変更する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合、検証操作は続行されません。

FS-11059: ノード %s の Forms Server HOST パラメータが %s に変更されました。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server で、クラスタのノード全体にわたって HOST パラメータに異なる値が使用されていたことがわかりました。HOST パラメータは、クラスタの他のノードと一貫性を持つように変更されました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11060: Forms Server HOST パラメータ %s は依存するネットワーク名 %s と一致する必要があります。

原因: 検証操作によって、Oracle Forms Server が、依存するネットワーク名値とは異なる HOST パラメータ値を使用していることがわかりました。レジストリ変数 HOST がホスト・パラメータとして使用されます。

処置: ネットワーク名と同じになるよう、HOST パラメータを更新します。

FS-11061: Oracle Forms Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。

原因: 検証操作によって、指定されたノードに Oracle Forms Server NT サービスが存在せず、ユーザーが NT サービスを作成しないことを選択したことがわかりました。

処置: Oracle Forms Server NT サービスを作成し、検証操作を再実行します。

FS-11062: Oracle Forms Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。デフォルト・ランタイム値で作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle Forms Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: デフォルト・ランタイム値で Oracle Forms Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックした場合、検証操作は続行されません。

FS-11065: %s: グループ %s の優先所有者ノードへの移動を開始します

原因: グループを使用可能な最初の優先所有者ノードに移動しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11066: グループ %s の優先所有者が指定されていません。現行ノードが優先所有者です。

原因: グループの優先所有者が指定されていません。現在のノードは優先所有者です。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11067: グループ %s は移動されません。適切な優先所有者ノードが見つかりません。

原因: 指定されたグループに対する適切な優先所有者ノードが見つかりませんでした。したがって、指定されたグループは現在のノードに残されます。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11070: グループ %s の所有者ノードを判別できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの所有者ノードを特定できません。操作を実行するには、少なくとも1つの所有者ノードが必要です。

処置: グループの所有者ノードを指定します。

FS-11071: グループ %s の可能所有者リストの導出中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの可能所有者リストを導出できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11072: グループ %s の可能所有者リストの設定中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの可能所有者リストを設定できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11073: ノード %s はグループ %s の可能所有者にはなりません。操作がこのノード上では実行されないためです。

原因: ノードがグループの可能所有者ではないため、このノード上のこのグループに対しては操作は実行されません。

処置: 指定されたノードに対して操作を実行するには、グループの可能所有者を変更します。

FS-11074: グループ %s の可能所有者を変更できません。グループ内に変更できるリソースがないためです。

原因: グループの可能所有者は、グループ内のリソースの可能所有者を抽出することにより導出されます。グループにリソースがない場合は、全クラスタ・ノードが可能所有者となります。また、Oracle Fail Safe では、ディスク・ドライブなどの一部のリソースでは可能所有者を変更しません。このエラーは、グループの可能所有者を変更しようとした時に、グループにリソースがないか、可能所有者を変更できないリソースを持っているかのいずれかの理由で実行できない場合に発生します。

処置: 変更できるリソースを持つグループ上の可能所有者のみを変更します。

FS-11075: ノード %s をリソース %s の可能所有者として追加できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに対して指定されたノードを可能所有者として追加できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11076: ノード %s をリソース %s の可能所有者として削除できません。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたリソースに対して指定されたノードを可能所有者として削除できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11077: グループ %s を宛先ノード %s に移動できません。ノード %s がグループの可能所有者ではないためです。

原因: ノードがグループの可能所有者ではないため、Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループを指定された宛先ノードに移動できません。

処置: グループを可能所有者であるノードに移動するか、宛先ノードが含まれるようグループ内のリソースの可能所有者プロパティを変更します。

FS-11078: グループ %s の可能所有者リストのリソース・タイプ導出中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループの可能所有者リストのリソース・タイプを導出できません。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11079: グループがそのノード上でアクティブなため、可能所有者としてノード %s を削除できません。

原因: グループは指定されたノードでアクティブであるため、Oracle Fail Safe Server は、ノードを可能所有者として削除できません。

処置: グループを別の所有者ノードに移動するか、グループをオフライン化します。

FS-11080: ノードの状態の取得中にエラーが発生しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタからノードの状態を取得できません。

処置: クラスタがノード状態を返さなかった場合は、副次的エラーを調べます。

FS-11081: ノード %s は指定された操作に使用できません。操作は継続中です。

原因: 指定されたノードでは使用可能でないために、指定された操作は実行できませんでした。操作は残りのノードに対して続行されます。

処置: 指定されたクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-11082: 指定された操作に使用できるノードがありません。

原因: 指定されたノードがすべて使用可能でないために、指定された操作は実行できません。

処置: 指定されたクラスタ・ノードまたはクラスタ・サービスをオンライン化します。

FS-11083: ノード %s は指定された操作に使用できません。操作を継続しますか？

原因: 指定されたノードは操作に使用できません。

処置: 操作を続行する場合は、「はい」をクリックします。操作を取り消す場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11084: Oracle Fail Safe はノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe Server が指定されたノードにインストールされていません。

処置: ターゲット・ノードに Oracle Fail Safe をインストールします。

2.23 FS-11100 から FS-11199 まで

FS-11101: Oracle HTTP Server %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の HTTP Server が存在しています。

処置: スタンドアロン HTTP Server は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。重複スタンドアロン Oracle HTTP Server を削除し、Oracle HTTP Server を再びグループに追加します。

FS-11102: 新規 Oracle HTTP Server NT サービスを作成するためにコマンドライン・ユーティリティを実行中に、エラーが発生しました。(%)s

原因: 新規 Oracle HTTP Server NT サービスを作成するために、Oracle HTTP Server コマンドライン・ユーティリティを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11103: %s ファイルの構文が正しくありません。

原因: コマンド "apache -t <httpd.conf>" が失敗しました。

処置: 新規 httpd.conf ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11104: ファイル %s がシステム上に存在しません。Oracle Fail Safe で新規の httpd.conf ファイルを生成しますか？

原因: 指定されたファイルが存在しません。

処置: 新規 httpd.conf ファイルを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。操作を終了する場合は、「いいえ」をクリックします。

FS-11105: Oracle HTTP Server リソース %s をグループ %s から削除しています。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定されたグループから指定されたリソースを削除しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11106: 構成ファイルをクラスタ・ディスクからプライベート・ディスクにコピー中です。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタ・グループから Oracle HTTP Server リソースを削除しています。この処理中、Oracle Fail Safe は、クラスタ・ディスクからプライベート・ディスクへと構成ファイルをコピーします。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11107: httpd.conf ファイルが存在しません。

原因: Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリに httpd.conf ファイルがなく、ユーザーは Oracle Fail Safe による httpd.conf ファイルの作成を拒否しています。

処置: Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリに httpd.conf ファイルを作成した後でこの操作を再試行するか、再試行時に前述の質問に対して「はい」と答えます。

FS-11108: インストール・ディレクトリにある httpd.conf ファイルの構文が正しくありません。

原因: Oracle Fail Safe は、Oracle HTTP Server インストール・ディレクトリ内の httpd.conf ファイルを、クラスタ・ディスクへとコピーします。これを行う前に、Oracle Fail Safe では、Oracle HTTP Server コマンド (apache -t -f <file>) を使用してその構文をチェックします。

処置: 構文の問題を修正し、操作を再試行するか、前述の質問で「はい」と答えます。

FS-11109: 構成ファイル %s の構文がチェックされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11110: 構成ファイル %s は正常に作成および変更されました。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11111: Oracle HTTP Server リソース %s はリソース %s に依存しています。依存性を追加しますか？

原因: Oracle HTTP Server リソースには、指定された必要な依存性が欠落しています。

処置: Oracle Fail Safe Server で、依存性を Oracle HTTP Server リソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11112: Oracle HTTP Server はクラスタ化されていないリソース IP アドレス %s でリスニングしています。

原因: Oracle HTTP Server は、クラスタ化されていないリソース IP アドレスでリスニングするよう構成されています。

処置: Oracle HTTP Server が同じグループ内のクラスタ・リソース IP アドレスをリスニングするよう、構成ファイルを変更します。構成ファイルを変更した後で、「グループの検証」を再実行し、依存性を設定します。

FS-11113: ノードの構成ファイル・パス (%s) は所有者ノード (%s) と一致しません。修正しますか？

原因: 所有者でないノード上の Oracle HTTP Server サービスの ConfPath レジストリが、グループの常駐するノード上の ConfPath レジストリと一致しません。

処置: グループが常駐するノード上の設定と一致するよう ConfPath を変更する場合は、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。ただし、Oracle HTTP Server はこのノード上では稼働しません。

FS-11114: Oracle HTTP Server%s を完全に検証するにはオンラインにする必要があります。オンラインにしますか？

原因: 「グループの検証」操作の結果、オンラインではない Oracle HTTP Server リソースがグループ内に見つかりました。Oracle HTTP Server リソースの完全な検証を実行するためには、そのリソースをオンライン化する必要があります。

処置: Oracle HTTP Server リソースをオンライン化するには、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、Oracle HTTP Server リソースの限定的な検証を実行します。

FS-11115: Oracle HTTP Server NT サービス %s はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle HTTP Server NT サービスが存在しないことがわかりました。

処置: Oracle HTTP Server NT サービスを作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11116: 適切に指定されていない入力があります。

原因: Oracle ホーム名、HTTP/IP リストまたはサーバー・ルート・ディレクトリが指定されていません。これは、ユーザーが FSCMD 使用している場合に発生する可能性が最も高いです。

処置: 必要な入力をすべて指定して、操作を再試行します。

2.24 FS-11200 から FS-11299 まで

FS-11200: ファイル %s は %s にコピーされています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11201: ポート使用をチェックしています。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11202: リソース %s が作成されました。

原因: クラスタ・リソースが正常に作成されました。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11203: ネットワーク名およびディスク・リソースに依存性を設定中です。

原因: これは情報メッセージです。

処置: 処置は必要ありません。

FS-11204: ファイル・アクセス・エラーが発生しました。システム・エラー: %s

原因: Oracle Fail Safe はファイルにアクセスできません。

処置: ファイルがアクセス可能であることを確認します。

FS-11210: 指定された関数は現行のクラスタ・バージョンではサポートされません。

原因: このバージョンのクラスタ・ソフトウェアではサポートされていないクラスタ・コールを行おうとしました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11220: 仮想アドレスの作成に失敗しました。

原因: 仮想アドレスの作成中にエラーが発生しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-11221: ネットワーク名 %s はすでにクラスタ・リソース %s によって使用されています。

原因: クラスタ・リソースで、すでに指定されたネットワーク名が使用されています。

処置: 未使用のネットワーク名を選択します。

FS-11222: IP アドレス %s はすでにクラスタ・リソース %s によって使用されています。

原因: クラスタ・リソースで、すでに指定された IP アドレスが使用されています。

処置: 未使用の IP アドレスを選択します。

FS-11223: ネットワーク名 %s はクラスタ・ノードの 1 つの名前です。

原因: クラスタ・ノードで、すでに指定されたネットワーク名が使用されています。

処置: 未使用のネットワーク名を選択します。

FS-11224: IP アドレス %s はクラスタ・ノード %s によって使用されています。

原因: クラスタ・ノードで、すでに指定された IP アドレスが使用されています。

処置: 未使用の IP アドレスを選択します。

FS-11260: Oracle MTS Service はノード %s に存在しません。作成しますか？

原因: 検証操作によって、指定されたノード上のグループに対する Oracle MTS Service が存在しないことがわかりました。

処置: Oracle Fail Safe Server で、Oracle MTS Service を作成する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11261: Oracle MTS Service %s が作成されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle MTS Service を作成しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11262: Oracle MTS Service %s が削除されました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、指定された Oracle MTS Service を削除しました。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11263: リソース %s は MSDTC リソースに依存性を持つ必要があります。リソース %s をリソース %s に依存させますか？

原因: 指定したリソースには必要な MSDTC への依存性がありません。

処置: Oracle Fail Safe Server で、依存性をリソースに追加する場合は、エラー・メッセージ・ウィンドウで「はい」をクリックします。問題を自分で解決する場合は、「いいえ」をクリックします。「いいえ」をクリックすると、検証操作が続行されます。

FS-11264: リソース %s をグループ %s から %s へ移動します。

原因: Oracle Fail Safe Server は、あるクラスタ・グループから別のグループに MSDTC リソースを移しています。

処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

FS-11270: Oracle MTS Service の最小バージョン %s がノード %s にインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle MTS Service の最小バージョンがインストールされている必要があります。

処置: Oracle MTS Service の、指定された最小バージョンをインストールします。

FS-11271: Oracle MTS Service %s がクラスタの複数ノードに存在します。

原因: クラスタの複数ノード上に、同じ名前の Oracle MTS Service が存在しています。スタンドアロン Oracle MTS Service は、クラスタの1つのノードにのみ存在するようにしてください。

処置: 重複しているスタンドアロン Oracle MTS Service を削除し、Oracle MTS Service を再びグループに追加します。

FS-11272: Oracle MTS Service の最小バージョンが1つ以上のクラスタ・ノードにインストールされていません。

原因: Oracle Fail Safe とともに使用するには、Oracle MTS Service の最小バージョンが各ノードにインストールされている必要があります。

処置: Oracle MTS Service の、指定された最小バージョンを各ノードにインストールします。

FS-11273: 新規 Oracle MTS Service を作成するためにコマンドライン・ユーティリティを実行中に、エラーが発生しました。:%s

原因: 新規 Windows NT サービスを作成するために、Oracle MTS Service コマンドライン・ユーティリティを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡します。

FS-11274: Oracle MTS Service %s をノード %s に作成できませんでした。

原因: 指定した Oracle MTS Service の作成に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11275: MSDTC リソースがグループに存在しません。Oracle MTS Service は MSDTC リソースに依存しています。

原因: 指定した Oracle MTS Service の作成または検証に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

FS-11276: Oracle データベース %s からの Oracle MTS Service 情報の問合せに失敗しました。

原因: ユーザーによる Oracle データベースからの Oracle MTS Service 情報の問合せに失敗しました。

処置: Oracle MTS Service に対して提供された Oracle データベース情報が正しいことを確認してください。また、副次的なエラーも調べます。

FS-11277: Oracle データベース %s から Oracle MTS Service のホスト名の取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、Oracle データベースから Oracle MTS Service のホスト名を取得できません。

処置: Oracle MTS Service に対して提供された Oracle データベース情報が正しく、エラーが発生したノードからデータベース情報を使用してデータベースにアクセスできることを確認してください。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11278: Oracle MTS Service の新規サービス名の取得に失敗しました。

原因: 同じ名前のサービスがすでに存在するため、Oracle Fail Safe Server は指定したサービス名を使用できません。Oracle Fail Safe Server は Oracle MTS Service の新規サービス名を生成し、その生成に失敗しました。

処置: 副次的エラーを参照してください。

FS-11279: TNSNAMES.ORA ファイルから %s の Oracle データベース・サービス名情報の取得に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、TNSNAMES.ORA ファイルからデータベース・サービス名情報を取得できませんでした。このため、クラスタの非所有者ノードに Oracle データベース・サービス名情報を複製できません。

処置: 該当する TNSNAMES.ORA ファイルで Oracle データベース・サービス名情報を定義するか、もしくはサービス名による Oracle データベースへのアクセスをすべての非所有者ノードに付与します。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11280: TNSNAMES.ORA ファイルの %s の Oracle データベース・サービス名情報の更新に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、クラスタの非所有者ノードで TNSNAMES.ORA ファイルのデータベース・サービス名情報を更新できません。

処置: 該当する TNSNAMES.ORA ファイルで Oracle データベース・サービス名情報を定義するか、もしくはサービス名による Oracle データベースへのアクセスをすべての非所有者ノードに付与します。また、副次的なエラーも参照します。

FS-11281: リソース %s のグループ %s から %s への変更に失敗しました。

原因: Oracle Fail Safe Server は、MSDTC リソースのグループの変更に失敗しました。

処置: 副次的なエラーを調べます。

